

平成7年度科学研究補助金
(一般C)研究成果報告書

複室構造横穴式石室の基礎的研究

—九州編—

柳 沢 一 男

宮崎大学教育学部

1996年3月

例 言

1. 本書は平成6年(1994)～平成7(1995)にわたって文部省科学研究補助金(一般研究C)を受けて行った調査・研究の報告書である。

2. 科学研究補助金の内容

課題番号：06610377

研究代表者：柳沢一男

研究題目：日本における複室構造横穴式石室の形成と展開に関する研究

補助経費：1995年度 1,400千円、1995年度 400千円

研究成果：本書

3. 本研究の一環として、1996年の春と夏に福岡県京都郡勝山町に所在する綾塚・橘塚古墳の石室実測調査を行い、成果の一部を本書に収めている。調査にさいして勝山町教育委員会のほか、隣接する行橋市・苅田町・豊津町の各教育委員会から多大なご援助をいただいた。関係各位に厚く感謝申しあげる。

4. 研究をすすめるにあたって、石室の実見や文献探索・収集に多くの方々から多くのご援助をいただいた。下記にお名前を記し、感謝申しあげたい(五十音順)。

赤崎敏男、赤司善彦、阿久津久、阿部裕久、天羽利夫、井浦一、石川正之助、池ノ上宏
伊藤昌広、岩崎仁志、上田薫、牛嶋秀俊、宇野慎敏、岡崇、緒方泉、大塚恵治、小方泰弘
小倉正吾、尾崎源太郎、小沢洋、小沢太郎、大谷晃二、大谷猛、大谷徹、角田徳幸
片岡宏二、金子晴美、蒲原宏行、川本秀紀、小松譲、小森哲也、國木健司、栗田茂敏、
近野正幸、澤田康夫、佐藤正義、猿渡真弓、篠原浩之、白木英敏、末永弥義、鈴木敏則
高木恭二、田嶋明人、田島龍太、田中祐介、田中広秋、棚田昭久、田村悟、飛野博文
寺嶋克史、土井基司、中尾修二、中川潤次、中村泰久、中原斉、中原博、中原幹彦、永田寧
長嶺正秀、西田道世、萩原祐房、服部哲也、濱石哲也、原俊一、判田博明、平之内幸治
福尾正彦、福島雅儀、藤川智之、藤瀬禎博、藤重輝行、藤田和裕、舟山良一、保積裕昌
松永泰彦、松本健郎、丸林 禎彦、右島和夫、三島格、宮田浩之、南時夫、村上久和
茂木雅博、森山栄一、安武千里、安村俊史、山田元樹、山村信榮、吉田高穂

5. 英文抄訳は谷正和氏(宮崎国際大学)のお世話になった。

本 編 目 次

第1章	はじめに	1
	1. 横穴式石室研究の位置	3
	2. 複室構造横穴式石室の研究現状	5
第2章	複室構造横穴式石室の形成過程	6
	1. 複室構造の成立	6
第3章	石室構造構成要素と型式分類	11
	1. 複室構造横穴式石室の範囲	11
	2. 石室各部の名称	12
	3. 石室構成要素の分類	13
	4. 複室構造の基本形式	16
第4章	複室構造横穴式石室の展開	17
	1. 編年の枠組み	17
	2. 肥後地域の編年	18
第5章	まとめにかえて	21
	引用文献一覧	22
	英文抄訳	23

資 料 編 目 次

1.	複室構造横穴式石室地名表	1 ~ 21
2.	図版（複室構造横穴式石室実測図）	1 ~ 28

第1章 はじめに

1. 横穴式石室研究の位置

1970年代以降の横穴系墓制（横穴式石室・横穴墓・地下式横穴墓を含めて、横穴系墓制ないし埋葬施設と呼ぶ）の研究は、各地での調査の進展と歩調を合わせるように著しく進展した。それは、古墳の墳形・規模の研究とともに各地域の6・7世紀史を跡づけるうえで重要な基本資料との認識が深まったためであろう。近年相次いだ横穴式石室を対象としたシンポジウムや研究会の開催〔千曲川水系古代文化研究所ほか：1989、帝塚山大学考古学研究所：1990、古代学協会四国支部：1995〕などは、こうした研究状況を反映している。それは、地域的につよい個性をしめす横穴式石室の解明には、個別地域にとどまる限り地域性すらみえない、という限界がよりつよく意識されてきたためであろう。

この間の横穴式石室研究は、形態や構造などにもとづいた型式学的研究にとどまらず、石室規模や構造・石材加工度の違いなどによる横穴式石室の階層性、墓制転換と拡散の政治的・社会的意味、埋葬儀礼と他界観念、埋葬遺体間の親族関係などについて多方向に議論が深まりつつある。さらに横穴式石室を主たる素材としての地域史再構成や古墳時代論へ言及も活発である。それぞれの分野での研究の蓄積は膨大な量に達するが、ここでは本論に即して横穴式石室の形態・構造に関する研究の内容と方向をトレースし、横穴式石室の古墳時代墓制研究にしめる位置を確認しておきたい。

この分野で近年の研究進展の第1にあげておきたいのは、地域単位での様相解明の深化である。横穴式石室の発掘調査例の量的増加が研究をうながした面もあるが、先に述べたように地域史再構成に欠くことのできない資料として、認識が深まったこともひとつの要因となっているだろう。研究の精粗に多少の差異があるとはいえ、横穴式石室が分布する地域のほとんどで、少なくとも旧国単位レベルでの型式的整理がすすんでいる。

地域研究の進展は、それぞれの地域での横穴式石室の多様な実体の詳細を明らかにしつつある。さらに現段階では、出現から終末にいたる多種の石室系統の型式的変遷、系統間の設計企画連関性、さらに石室系統間の階層性、また各系統に近接する系統間との比較研究などの研究方向をしめすのが一般的である。しかし石室の築造系譜の検討は、より広い地域間の交渉の観点を必要とするばあいがあり、小地域の横穴式石室の動向もこうした観点からも見きわめる必要があるだろう。

こうした問題意識のもとに個別小地域を越えて、広域の横穴式石室の比較研究の兆しがみえてきたのが第2の成果である。

はやく白石太一郎が日本における横穴式石室の出現とその意義を論じるに際して、豊富な資料の検討から石室系譜の抽出を試みた研究がその嚆矢となるものであった〔白石1965〕。その後、各地域の出現期の横穴式石室形態を丹念にたどった小田富士雄の研究も、広域の石室系譜間のつながりを重視し〔小田1980〕、5世紀代の北部九州型・肥後型横穴式石室の西日本各地への拡散を追跡した柳沢の作業も、石室系譜の構造的把握の重要性を指摘したものであった

[柳沢1980、1982]。池上悟による胴張り石室の出現と展開を東海から東北地方にまでたどった研究や[池上1982]、田中広秋の関東に広がる切石積み石室技術系譜研究も視点はちかい[田中1989]。

これまでの広域研究は特定の要素をもつ横穴式石室を取り上げたものが多かったが、横穴式石室の様相を総合的に解明しようとする研究も進展している。なかでも西日本全域の横穴式石室を通観し、多様な地域石室系譜の抽出と系譜間の歴史的背景を追跡した山崎信二の作業は、九州型と畿内型の二大別とその系譜の位置づけに問題点を含んでいるが、横穴式石室研究に新たな地平を開いた点で評価できる[山崎1985]。

同様な視点から一定範囲を対象としたものとして、北陸地方を扱ったもの[伊与部1989]や、池上悟による関東地方の各地を取り上げた諸研究[池上1972、1988]、土生田純之による九州北部・山陰・伊勢湾沿岸域の研究[土生田1980、1983、1988]などがある。これらの研究法の特徴は、対象地域における多様な石室形態を整理し石室系譜を丹念に抽出したうえで、各石室系譜の型式変化と隣接石室系譜の相互関連、石室の階層性を追求する点にある。

第3に、一定の範囲につよい個性をもつ特徴的な石室系譜や、小地域に限定される特定型式の石室研究の進展もあげておくべきであろう。

はやくから議論されている畿内終末期の石槨式石室[最新の研究成果として、広瀬1996がある]や岩橋型石室[森1967のほか多]などのほか、磚槨式石室[集成的成果として、奈良県立考古学研究所ほか、1994がある]、石棺式石室[集大成的成果として、出雲考古学研究会編1987がある]などが代表的なものであろう。

地域性につよい石室型の小地域分布から、被葬者集団を具体的に想定する研究がある。水野正好は、滋賀県南部の横穴式石室の穹窿天井の石室を、供献されたミニチュア炊飯具を根拠に渡来人集団の墓制と推測し[水野1969]、天羽利夫は四国の吉野川下流域に局地的に分布する忌部山型と段ノ塚穴型の二つが、それぞれ出自を異にする特定氏族の石室構造と位置づけた[天羽1973、1977、1978]。埼玉県企久地方に顕著に発達した胴張切石積み石室の一群を、吉士集団の墓制と関連づけた金井塚良一の研究[金井塚1975]も同様な視点からの成果である。ただ、被葬者集団の特定に取り上げる文献史料と考古資料の時間的整合性に問題はないのか、十分に考慮すべき点は土生田が指摘したところである[土生田1991]。

このような一定の広がりをもつ特定石室型や地域的に限定される石室型の追求は、特定階層との結びつき(墓制の階層秩序化)や特定地域の墓制を明快に語る場合もある。さらに、地域社会の階層構造や動態の解明に踏み込む方向性をもつ。たとえば特定石室型の広がりや、その墓制を共有する集団の分布版図(勢力圏)を具体的にしめすことになるし、それが点的に離れたところに認められる場合は広域交渉解明の手がかりになるであろう。

以上のように横穴式石室を素材とした多様な研究は、たんに墓制の解明だけでなく古墳時代後半期の社会的・政治的構成や政治過程、埋葬儀礼含む各種の精神活動、土木・設計・築造技術などの解明に寄与する部分は少なくないし、また地域史にとっては地域勢力版図や勢力の動向、地域間交流、首長層間交渉などにおよぶ成果が期待できるであろう。

2. 複室構造横穴式石室の研究現状

遺体を埋葬する墓室（玄室）と羨道のあいだを区画して房室的空間を設けた構造の石室を、玄室と羨道から構成されるふつうの横穴式石室と区別して複室構造横穴式石室と呼びならわしている。

日本の複室構造横穴式石室（以下、複室構造と省略することもある）は、九州の中部から北部一帯を分布域の核とし、九州島に接する山口県西部、日本海側の島根県から鳥取県西部、瀬戸内海沿岸西部と四国北部、大阪湾沿岸域・奈良盆地、伊勢湾沿岸域、東京湾周辺から関東、そして一部東北南部までの広域な分布が知られている。また、横穴式石室とともに古墳時代後期の主要な墓制を担う横穴墓でも、数的に少ないとはいえ複室構造をとるものがある。そして複室の横穴式石室の分布域と重複する地域だけでなく、さらにその外縁部にも展開するのが特徴的である

ところで複室の横穴式石室は、同時期の単室構造の石室と数的に比較しても圧倒的少数派である。とくに複室構造が集中的に分布する九州の中北部においても、福岡県の筑後地方を除けば単室の横穴式石室が一般的であって特殊な形態であることに変わらない。それだけにはやくから研究者の目を引くところとなり、とくに九州の壁画を描いた横穴式石室に複室構造が目立つこともあって、両者を連動した文化波及現象と想定した議論もあった。

しかし、横穴式石室構造論として総合的な研究対象とならなかったのは、横穴式石室研究の全般的な立ち後れと、祖形系譜論に偏りがちであった研究方向に起因したといえるであろう。そのためであろうか、研究の基礎となる複室構造の集成作業もここ20年のあいだ取り組まれなかった。ちなみに、九州の複室構造の横穴式石室の集成・地名表作成はこれまで2度試みられている。最初に試みた松本健郎は九州内で総数75基を集成し、その2年後には松本肇・佐田茂らが九州で総数93基（福岡46、佐賀15、長崎1、熊本22、大分6）を集成している。今回の集成作業で確認された数は、福岡 576、佐賀 114、長崎38、熊本23、大分14、総数765基である。

以下、本稿と関わる範囲で複室構造の横穴式石室に関する研究をたどり、継承すべき成果と問題点を概述しておきたい。

（1）複室構造の形成過程

複室構造の出現時期と該当古墳について二つの見解がある。

一つは小田富士雄が指摘したように、6世紀前葉～中葉の熊本県大坊古墳・チブサン古墳の石室にみられるような玄室と羨道から明確に分離した前室を備えた形態を最古の複室構造とみなすものである〔小田：1968〕。いま一つは、大坊古墳よりも年代がさかのぼる、肥後型石障系石室の熊本県伝左山古墳を複室構造の初期の構造例とみなす考えである〔乙益：1967、1974、松本：1970〕。

伝左山の石室は、ふつうの石障系石室よりも幅広い羨道内部に立柱石を立てて、羨道を前後に二分する構造で、乙益・松本らはこれを前室とみなしている。しかし定型化した大坊の前室と、こうした伝左山の前室とは構造上の違いが大きい。乙益・松本らは、この構造上のヒアタスを埋める石室系譜についての説明が十分でなかったため、全体を納得させるにいたらなかったのは残念であった。

この点で近年になって、伝左山古墳と清原古墳群の塚坊主古墳の2基の石室が相次いで再調査され、これまで不明だった石室の細部が判明した。伝左山は未報告だが、塚坊主は概要が公表され、両者の構造を直接比較できるようになったのは重要である。複室構造をどのように定義するかによって伝左山・塚坊主の取り扱いが変わる可能性があるが、これを機会に複室構造の成立過程を再検討するのも意味のないことではない。それは伝左山の石室構造が肥後型石障系石室のなかでも孤立していること（柳沢1982）、森下浩行が指摘したように朝鮮半島からの新たなインパクトによって成立した新形式の可能性はないのか（森下1986）、という検討も残されているからである。

（2）複室構造の型式学的理解と型式変遷

九州の横穴式石室全体に対する研究は、4・5世紀代の初期横穴式石室研究を除くと全体的に低調気味である。複室構造については装飾古墳との関連で記述されることは多いが、石室論として取り上げた論攷は、わずかに小田富士雄〔小田：1968〕と松本健郎〔松本：1970〕の2編のほかにはみあたらない。

小田・松本の研究は現在と違って資料が数少ない悪条件のなかで、複室構造の形成と九州各地への展開過程を幅広く検討したものとして評価される。なかでも、年代の定点となる主要古墳の調査と整理に取り組んだ小田の研究は、いまなお基準資料として大きな位置をしめているが、当時の関心が須恵器編年の確立と古墳年代の対応関係にあつたらしく、石室の細部まで立ち入った検討がなかった。しかし、横穴式石室出現以降の基本的な型式変化を押さえ、複室構造の編年位置を的確に指摘した意義は大きい。

1970年代以降の調査の増加によって以前にもまして膨大な資料が蓄積され、各地域で多様な形態の複室構造横穴式石室の実体が明らかとなりつつある。複室構造の多様性が明らかになるにしたがって、かえって石室構造の全体像がとらえにくくなったきらいがある。近年複室構造石室を総合的に検討した論文を目にしていない。

いくつかの報告書のなかで、複室の胴張り石室平面形設計法に関する検討や〔石山：1972〕や、石室構築原理の検討〔小松：1994〕など、石室設計企画論を中心にすすめられているが、今後、複室構造全体を見通した型式学的研究の取り組みを望みたい。

横穴式石室を資料として地域史や地域社会論を構築するためには石室構造の地域性や階層性の抽出が必要である。そのためには、地域性に閉じこめられてしまいがちな横穴式石室を全体のなかで相対的に位置付けることが重要である。本稿では型式的検討を中心にした基礎研究の確立をめざすことにしたい。

（3）石室構造の階層性と地域性

複室構造の横穴式石室が注目される理由のひとつに数的な希少性がある。6～7世紀代の群集墳に複室構造を採用した古墳が少なく、群内でも大型古墳に採用されるのがふつうである。6世紀中葉以降の前方後円墳のほとんどが複室構造であることから、複室は単なる石室構造上の違いにとどまらず階層性を表示したものと理解が福岡県朝倉地方の群集墳調査例の総括〔朝倉高等学校史学部：1969〕をはじめ、群集墳の調査報告にしばしば記述されている。九州北部では複室構造の横穴式石室について、一定の共通認識をもっていたことがわかる。

こうした階層性について、限られた地域だが複室構造の規模や構造的違いから地域社会内の階層構成について触れた研究が展開されている〔長峰：1986、緒方：1992〕のも重要で、より広域を対象とした研究の深化が望まれる。

いっぽう近年の調査は、従来想定されてきた複室構造に階層性理解とは異なった位相を想定させる様相も明らかになりつつある。

ひとつは、福岡県南部の筑後地域における6世紀後葉～7世紀前葉に継続する新期群集墳のあり方である。地名表でもわかるように、水繩山麓の浮羽郡田主丸町には膨大な数の複室構造石室が密集する。発掘調査された浮羽郡田主丸町益生田A古墳群では調査された15基のうちの9基が複室であった。同じく筑後南部の八女郡広川町植松古墳群では9基中の7基、三池郡高田町宮ノ浦古墳群は遺存している5基すべてが複室構造石室で構成されているという。ただ益生田A古墳群の単室横穴式石室は、同群の複室に比べて墳丘・石室規模とも小型でその格差は明瞭に表現されている。これらの群集墳の墳丘規模は10mを前後する規模でとぶつうの群集墳とさほどのちがいはない。筑後南部ではこの20年間の群集墳調査例のうち、複室構造のしめる割合が60%を上回っている。異常なまでの高い比率は、なにを意味するのであろうか。

これに対して、北部の玄界灘側、東部の周防灘側、そして佐賀県南部では、筑後と比べると群集墳内における複室構造のしめる比率はさほど高くない。調査古墳にしめる割合の正確な数値をとっていないから精度に欠けるが、おそらく20%を前後する程度ではないかと思われる。群集墳でもまったく複室構造を含まないタイプ、10%～20%程度のタイプ、あるいは50%を超えるタイプもないわけではない。北豊前の行橋市北垣古墳群のように、墳丘が明確でない小石室（石棺）墓を除くすべてが複室構造で構成されるものもある。

複室構造の横穴式石室が墳丘・石室規模において単室よりも優位にある例の比率がたかまり、複室構造の階層的秩序表現の役割は筑後よりもはるかに機能していたのであろう。

はじめに記した複室構造石室からうかがわれる階層的表示的説明は、筑後やいくつかの特例を除いて地域のあり方を一般化した様相をしめしていたのである。

それでは、複室構造のしめる割合が高い群集墳と、低い群集墳、あるいはまったく複室構造を含まない群集墳相互の関係は、先の説明で解決できるのであろうか。その違いが生じた要因を明らかにするには、墓室や墳丘の規模、副葬品構成の差の有り無しと程度差をはっきり確認し、イメージ先行的な説明を排除する必要がある。

複室構造という特殊な形式の石室構造があることで、群集墳の造営主体相互の階層関係を含めた連関を探る手がかりになるかもしれない。そのためには、地域社会における階層関係と墓制の連関に関する理解をさらに深める課題が残されている。

第2章 複室構造の形成過程

複室構造の形成過程についての二つの考え方は先に述べたとおりである。相違点をいま一度整理すると、①玄室と羨道との間を平面・立面形とも分離した前室のみを複室構造と認めるのか、それとも②羨道の途中を立柱石で前後に区分した構造も前室と認めるのか、と単純だ。

小田の①の主張は、熊本県北部の横穴式石室調査成果が十分に一般化していない段階であり、その点で石室資料が以前と比較にならないほど増加した現在、このように対立的に併記するのは正しくないかもしれない。それはさておき、結論を先取りすれば、複室構造は熊本県北部（菊池川流域）の肥後型横穴式石室を母胎とし、羨道を立柱石で前後に二分した不定形前室から、玄室・羨道から分離した定形前室へと形態変化をたどったとみるのが妥当であると考えたい。この推測をより具体的に示すことが可能となったのは、菊池川流域での調査資料の追加と、肥後型石室と密接な築造系譜をもつ佐賀県唐津湾沿岸域資料の詳細な図化作業の成果である。調査をすすめられた関係各位に敬意を表したい。

以下、基準となる石室資料を提示しながら前室区画の出現から定型化の転換をたどっておきたい。

1. 複室構造の成立

(1) 熊本県北部・菊池川流域

熊本県北部を西・南西に蛇行する菊池川流域の中下流域に、先述した不定形前室を区画した横穴式石室と初期の定型前室をもつ複室構造石室が分布する。まず各古墳石室を概略をみておこう。

① 伝左山(でんざやま)(図1-1)

菊池川右岸の低台地上にある直径約30m、高さ5mほどの円墳。墳丘中央から南に偏して西に開口する横穴式石室と、石室天井より上位に阿蘇灰石の刳抜式石棺が直葬されている。1965年の調査の際、石室内より複数の甲冑セット・武器などの豊富な副葬品が発掘された(田添1966)。正確な年代は未確定だが、5世紀第3～4四半期にかかる頃と想定される。

横穴式石室は安山岩の偏平な割石を小口積みで、全長約5m、石障を巡らした長方形プラン(幅2m、長さ2.5m、高さ1.8m)の玄室に羨道が接続する。羨道の位置が右壁側に偏向しているが、完全な片袖ではなく玄室側がわずかに広がる。玄室と羨道の境は、袖部に接して壁体から独立した柱石を左右に立てて玄門を構成している。羨道は長さ2.7m、幅1.1m、3枚の天井石を水平に架構している。この段階の肥後型石室としては、幅・長さとも異例の構造である。

前室的空間は、玄門から1.2～1.4m入口側の羨道途中に設置した立柱石で区画された、長さ・幅とも約1.1mのサイズである。立柱石は安山岩の塊石を方柱状に加工したもので、左右相称の位置になく多少のずれが認められる。閉塞は羨道途中に設置された立柱石の外部から板石を立てかけて行っている。天井部は水平で前室部をとくに立面形で区画しようとする意図は読み取れない。

② 塚坊主(つかぼうず)古墳(図1-2)

伝左山古墳から菊池川を7kmほどさかのぼった左岸台地上にある。江田船山・虚空蔵古墳などとともに清原古墳群を構成し、江田船山古墳に後続する前方後円墳(墳長44m)である。後円部にある横穴式石室は南に向いてくびれ部方向に開口する。太平洋戦争中、京都大学が玄室と羨道の一部を発掘調査し壁画古墳と確認された。1991年、史跡整備に伴って周堀の調査と石横穴式石室の再調査が行われ、細部の構造が明らかとなった。周堀内からV期の埴輪とTK47~MT15併行期の須恵器が出土しており、5世紀第4四半期末葉から6世紀第1四半期はじめ頃の築造年代と想定される。

石室は全長約4.6m、周壁は安山岩割石の小口積み、幅・長さとも約2.7mの方形基調平面形の玄室と長さ1.9m、幅1.1mの羨道部からなる。玄室内に灰色阿蘇溶結凝灰岩(以下、阿蘇灰石という)の石棺系石屋形を配置し(内面に赤・青2色の顔料を用いた連続三角文が描かれている)、その前面に平行する屍床を設ける。

玄室左袖部に接して、玄室・羨道の内面に突出する立柱石がある。玄室右袖部に接する部分に石材を抜いた痕跡が残り、もともと玄室の左右袖部に接して立柱石を配した玄門を構成したことがわかる。また袖石から1mほど入口側の羨道内にも、羨道壁体からわずかに遊離して立柱石が配置されている(公表されている石室実測図は床面の平面図がないため、配置法が明確でない)。玄室袖部と羨道部の立柱石配置の手法は、伝左山とよく似た構造である。羨道上部を失っているが、おそらく伝左山に類似する水平天井であった可能性がたかい。

③ 大坊古墳(図1-5、図版26-1)

伝左山古墳から3kmほど上流側右岸台地端につくられた墳長約42mの小型前方後円墳である。1963年の石室内の発掘調査によって、金製垂飾付耳飾・馬具などのほか、TK10併行期の須恵器が出土しており、6世紀第2四半期の築造年代と想定される。

後円部側面に開口する石室は全長約6m、周壁を安山岩割石積みで行う。玄室は幅2.7m・長さとも約3.4mの不整な隅丸長方形で、天井までの高さは2.8mである。玄室の左側壁側にやや偏って、平面・立面形とも不定形な前室が接続する。玄室と前室の境は、袖部の壁石に十分に組み込まれていない立柱石を、石室主軸に直交する方向に立てて玄門とする。前室は玄室幅よりも狭く前方に向かって開き気味の平面形である。前室天井部は1段高く構築し空間的広がりをもたせている。羨道との境は、安山岩の板石を壁体内に十分に組み込んだ構成となっている。玄門前に不整形な添石を置き、二重玄門とする。

なお玄室奥壁に沿って阿蘇灰石製の石屋形(内面に赤・青・黄3色を用いた連続三角文と円文、人物像が描かれる)を置き、前面に屍床を区画したらしい。

④ チブサン古墳(図版26-2)

菊池川中流域の山鹿盆地西縁の台地上につくられた墳長約44mの前方後円墳。V期の埴輪とTK10併行期の須恵器が採集されており、大坊古墳と近接した築造年代が予想される。

後円部にある石室は南側面に開口する。石室は前室より前方部を失っているため、もともとの規模と羨道の構造は不明である。現状の石室長は約6m、玄室・羨道とも安山岩割石積み。玄室は最大幅・最大長が約3.4mの不整な隅丸長方形、天井までの高さは3.7mと発達した穹窿天井構造である。奥壁に沿って阿蘇灰石製の石棺系石屋形(内面に赤・青・黄3色による連続三角文のほか、円文、最古の人物像が描かれている)を置き、その前面に屍床を配置している。

前室は小型で均整のとれた方形プランとなり、天井部は大坊よりも高く発達している。玄門

は十分に袖部に組み込まれていないが、板石配置指向が顕著となり石室主軸に直交する配置法がうかがわれる。前門は板石を壁体と一体化し、定型化した形態とみてよいであろう。

(2) 佐賀県北部・唐津湾沿岸域

熊本県北部の菊池川流域を除いて、横穴式石室の複室構造化の過程ををうかがうことができる唯一の地域である。以下に取り上げる2つの石室は、いずれも玄室の周壁下部に砂岩の板石をめぐらせた石障系石室として、肥後型石室との関連が注目されてきた資料である。

① 樋の口古墳(図1-2、図版22-1)

唐津市大字鏡にあり、直径約16m、高さ4mあまりの円墳状を呈するが、周辺の地形が大きく変更されているため本来の墳形・規模はわからない。石室の開口が古く、出土遺物も知られていない。

南西に開口する横穴式石室で、玄室・羨道とも玄武岩割石積み。玄室は幅2m、長さ2.4mの長方形、四壁に沿って丁寧に加工された砂岩板石の石障があるが、前障が他の石障よりも低く配置されるのは肥後にみない特徴である。玄室の中央に幅1.3~1.4mの羨道が接続する。玄室と羨道の境は板石を石室主軸に直交して立てる。羨道の天井は大型の偏平な玄武岩2石を水平に架構している。羨道前半部の壁体は、破壊ないし崩壊後に積み替えられているため旧状を知ることができない。

現在、積み替え後に天井石の先端を支えるように羨道中途の側壁に沿って2石の柱状石材が立てられている。砂岩の転石で、長さ1.12mと1.15m、厚さ20cm前後の方柱状を呈し、入念に選択されたことがわかる。筆者らの観察によれば、表面の各所に削り加工痕と一部に赤色顔料の塗布がみとめられるから、積み替え時に他所から新たに持ち込まれたのではなく、もともと石室の一部に使用されていた石材と判断される。

そのばあい、この石材の使用部位として考えられるのは、羨道を前後に二分する区画のための立柱石だがそうとは即断できないところもある。土砂が堆積した現状の羨道高は約1.4mだが玄室床面を参考にすれば羨道高は1.8m程度と推測され、先の石材では床面から天井石までの高さに満たない。この点についての構造上の使用法がわからないが、この石室内に使用された可能性がたかいことから、伝左山・塚坊主の石室に類似して羨道内部を区画にした石材と想定するのが妥当であろう。

このように羨道を区分した前室を復元したばあい、伝左山や塚坊主の石室構造との違いもある。石障形態の細部はおくとして、顕著な差異は玄室と前室的区画のあいだの区分法である。伝左山・塚坊主が壁体に組み込まれていない立柱石で区分するのに対して、樋の口では石室主軸に直交に突出した板石である。こうした板石による玄門構成は菊池川流域ではチブサン以降に次第に顕著になる手法である。おそらくこの玄門構成は、玄界灘沿岸に一般的な北部九州型の横穴式石室手法を採用した結果と理解するのがふさわしい。

② 淵上(ふちのうえ)古墳(図版22-2)

唐津湾の東端に注ぐ玉島川右岸にあり、河口に面した丘陵斜面につくられた円墳である。墳丘は削除され石室の一部が露出している。石室の開口は古そうだが、出土遺物が知られておらず年代を確定する手がかりはない。

羨道先端が埋没しているが、石室の現存長は約6m、長方形の玄室に小型の前室と短い羨道からなる。前室~羨道に数10cmの土砂が堆積しているため正確な規模は不明だが、玄室は幅

2.7m、長さ約3m、現状高2.2mである。周壁に沿って石障がめぐり、奥障に沿って石屋形が付設される。前障は奥障・側障よりも一段低く、土砂に埋もれている。石室石材は小振りの花崗岩の転石や割石を使用し、石障および石屋形構築材にのみ砂岩板石を用いる。

前室の平面形はほぼ方形にちかい（左壁手前が不整形なのは土砂の埋没のためである）。玄室・羨道、前室・羨道の間壁は板石で明確な玄門・前門を構成するが、前室上部を高く構築しない平天井を保ち、樋の口に共通している。

(3) 複室構造の成立から 定型化へ

熊本県北部菊池川中・下流域と佐賀県北部唐津湾沿岸域における横穴式石室の複室構造の定型化過程を、それぞれの地域で年代を追ってたどった。以上を整理し、成立から定型化にいたる過程を検討しておきたい。

冒頭で触れたように、菊池川下流域の伝左山・塚坊主の二つの石室は、前者が石障系、後者が石障を放棄して独立石屋形を最初に採用した例と考えられるが、以前の肥後型石室に特有の短小で幅の狭い羨道部を、幅広で一定の長さ天井を備えた形態に改変した新形式といつてよいであろう。そして玄室袖部と羨道中途に、壁体に組み込まれない立柱石を立てて前室的空間をつくりだしている。しかし羨道部天井は水平架構のまま残され、前室空間を立面的にも表現するにいたっていない。以上の特徴をもつ前室構成法を複室成立期の試行的な手法として、羨道区画型

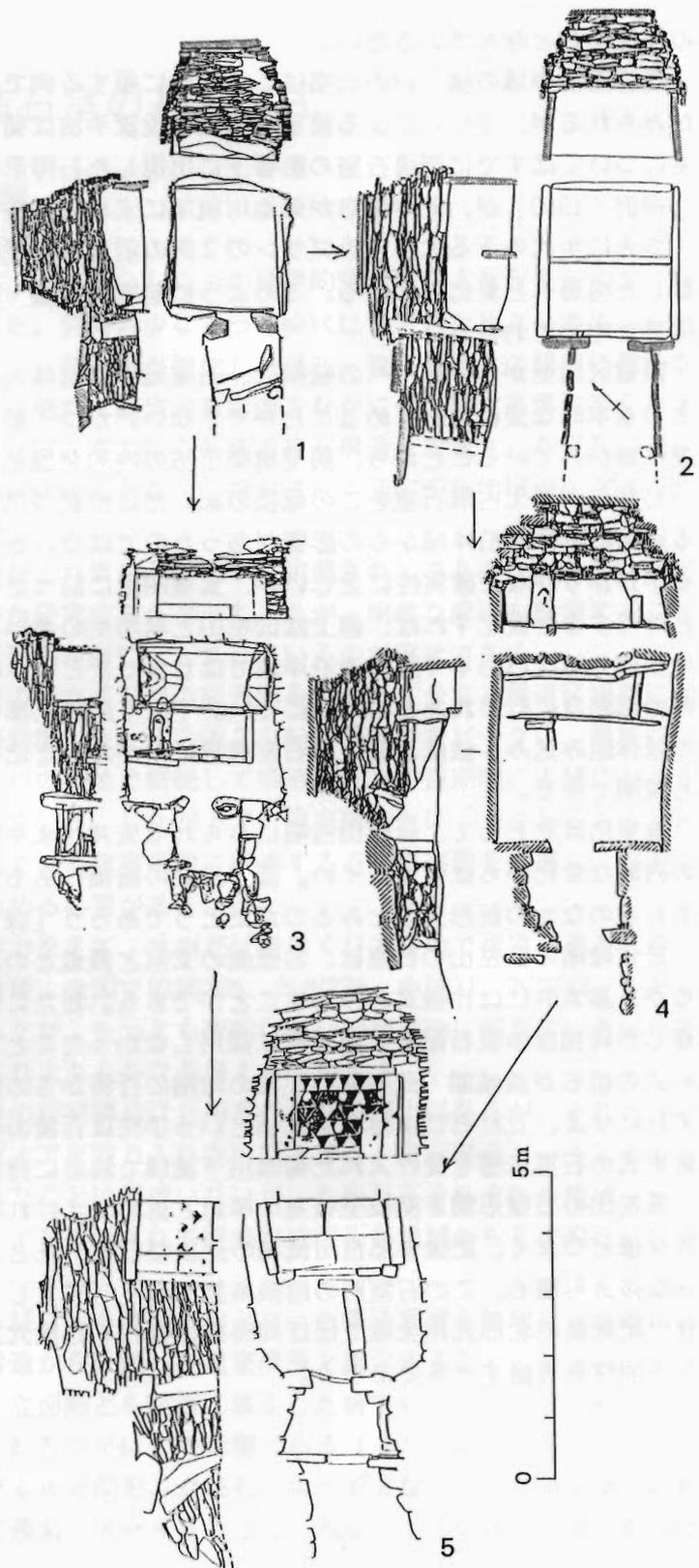


図1. 複室構造の形成過程 (1/120)

1. 伝左山古墳 2. 樋の口古墳 3. 塚坊主古墳
4. 淵上古墳 5. 大坊古墳

の複室構造と呼んでおきたい。

唐津湾沿岸域の樋の口の石室はこの段階に属する例である。石障と玄門構造に地域的な特徴がみられるが、立柱石による前室的空間の設置手法は菊池川流域の手法に等しい。樋の口の石室についてはすでに肥後石室の影響下に出現した石障形石室であることを指摘したことがある〔柳沢：1980〕が、その祖形が菊池川流域に求められることが明確となったのは重要である。

つぎに年代の下る大坊・チブサンの2例の前室は、平面・立面形において羨道から明確に分離した構造へと変化している。このように前室が玄室・羨道から分離した形態を分離型の複室構造と呼んでおきたい。

羨道区画型から分離型への転換は、石室規模の総体的な大型化と前室構成法を除いて、構造上の基本的な変化をみとめることができない。かつ、前者に特徴的な玄門構築の手法が後者に受け継がれていることから、前室構築手法の内的発展とみることができる。

しかし、淵上古墳石室をこの転換のあいだに位置づけると、前室が羨道から平面的に分離する過程に唐津湾沿岸域からの影響があったのではないかと想定できる。淵上古墳の年代を知る手がかりがなく確実性に乏しいが、玄室四壁に沿った石障の配置手法が肥後北部の石室変化と併行すると仮定すれば、淵上は伝左山と塚坊主のあいだの時期となり、前室の羨道からの平面形分離はいち早く唐津湾沿岸域ではじまったというほかない。しかし淵上の石室構築がこの地域独自に行われたとは考えにくい。やはり肥後北部の造墓集団の関与を想定すれば、前門の壁体組み込み手法は、淵上の石室構築にかかわった肥後北部の造墓集団によって伝えられたと説明できる。

複室化は別として、伝佐山古墳にみられる天井部水平架構の羨道形態は、以前の肥後型石室の内的な変化からは考えにくい。森下浩之の指摘にあるように、外的なインパクトによる肥後型石室のなかの新形式ととみるのがだとうであろう〔森下1986〕。

最古段階の伝左山の石室は、右壁側の玄室と羨道とのあいだに多少の入り組みがみとめられるが、基本的には片袖式とみなすことができる。新たに出現した石室形式が、肥後中南部に発達した両袖部の板石配置を積極的に採用しなかったころもその証左となるだろう。この石室形式の祖形が漢城期・公州期いずれの段階の百済からの影響か、にわかに断定できないが、いずれにせよ、立柱石による羨道区画という手法は百済の石室にみることができないから、この新形式の石室形態を受け入れた菊池川下流域で独自に発案された手法と思われる。

伝左山の石室形態を肥後型石室の革新と認めてよければ、この石室形の及ぼした影響力は意外なほどつよく、肥後中部白川流域の肥後型石室、たとえば千金甲1号墳の天井を架構した狭長な羨道形態も、この石室形の構築系譜を引く形態として理解できる。それだけにとどまらず、6世紀前葉の北部九州全域でほぼ同時的に進行した横穴式石室の定型化にも大きな影響を与えた可能性も考慮すべきであろう。

第3章 複室構造石室の基本形式

1. 複室構造横穴式石室の範囲

横穴式石室の玄室と羨道のあいだに、一つないし二つの房室的空間を備えた石室形式を一般に複室構造の石室と呼びならわしてきた。資料の少なかった時代は典型的な独立分離型の石室例をあげれば十分だったかもしれないが、調査例が増加した現在、複室構造との認定に微妙な形態例も少なくない。また横穴式石室に触れた論攷や報告書のなかにも、認定基準に混乱をきたすような記述も少なからず見受けられる。それはこれまで複室構造を対象とした研究が少なかったうえ、石室構造についての議論がほとんどなく、複室構造の認定が各地域の研究者の経験的な判断に委ねられてきたためであろう。

本稿を整理する際、複室構造の石室がこれまでどのように定義されてきたのか、あるいはどのような石室までを複室と認定するのか研究史をたどってみたが、明確な叙述を検索することができなかった。冒頭に述べたような形態理解にとどまっているのが実状である。

前章でみたように、複室構造は単室の横穴式石室の羨道部を前後に二分する羨道区画型に始まり、6世紀前葉に典型的な分離型が登場した。その後7世紀前葉までをピークに、最終的には7世紀末葉までのあいだ中・北部九州の各地で継続して築造された。長期間の広域にわたる築造は個性のつよい石室群を生み出している。したがって、複室構造とは「かくあるもの」という概念は無きに等しく、現在知られている複室構造に関連する石室の実態を把握し、おおよその石室の範囲を限定することから始める必要がある。

今回の研究では多くの研究者のご協力をえて、九州だけでなく日本各地で複室構造と認識されてきた石室の集成を試みた。その結果、全国で約967例、九州775、中国31、四国12、近畿12、東海47、関東・東北約90例が集成されたが、もっとも数的に多い福岡県内に調査の行き届いていない地域が残されており、実数はこれよりもかなり増えるであろう。

以上のうち、九州に近接する山口県の複室構造は九州系の石室系譜上にあるが、それ以外の地域では在地系の石室に複室のアイデアを取り入れた形態である。複室構造というアイデアのほとんどが九州から情報発信されたことは間違いないが、九州からそれぞれの地域へ直接的に伝わったのか、それともアイデアを受け入れて複室が盛行した地域から2次的に伝わったのか、見きわめは難しい。

それはさておき、これらの資料ならびに前章で明らかとなった築造系譜を整理した結果、以下の要件を満たす横穴式石室を単室構造から分離して複室構造と認定することにしたい。

①玄室と羨道のあいだに、平面形・立面形とも明確に独立した房室的空間を設けた形式。これまで複室構造の典型例としてあげられた石室はこの形態である（先の分離型に等しい）。

②石室内面に突出した玄門から延びる羨道部を、立柱石によって2ないし3つの空間に区画した形式。天井高の違いや楣石配置で羨道と区分するものと、水平のまま無区分のものがある（先の羨道区画型に等しい）。

③玄室奥壁から羨道入口部まで直線的にのびる石室全体のあいだを、立柱石などによる間壁で区画し複数の空間を設けた形式。天井部を楣石で区分するもののほか、水平のまま無区分の

ものもある（全区画型と呼ぶ）。

④長大な玄室を立柱石などの間壁と楣石配置によって前後に二分した形式。羨道とのあいだにさらに前室を加えるものと、加えないものがある（玄室区画型と呼ぶ）。

⑤横口式石槨、ないし石槨風の玄室と羨道のあいだに房室的空間を設けた形式。玄門・前門を伴うものと伴わないものがある（石槨式石室型と呼ぶ）。

このうち、九州の複室構造には①・②・③・⑤・複室亜型が含まれる。しかし、これまで一般に複室構造とみとめられてきたいくつかの著名な石室が脱落する。福岡県桂川町桂川王塚、熊本県熊本市万日山・山鹿市臼塚などである。理由は必要に応じて記述したい。

2. 石室各部の名称

複室構造の概念規定が曖昧であったためか、石室各部位の名称も研究者や地域間によって違いが少なくない。ちなみに例をあげると、玄室を前室に対して後室、あるいは前室を副室とする例、また玄室と前室・前室と羨道を区画する間壁についても、玄門・前門と呼ぶほか玄室袖石・前室袖石とするものもある。

本論では石室各部位の名称をつぎのように呼称したい（図2）。なお石室側壁の左右は、石室入口から奥壁に向かっての左右である。

複室は単室横穴式石室の玄室と羨道のあいだに房室的空間を設置した構造というおおよその概念からすれば、玄室・前室の呼び方がふさわしい（玄室・前室のあいだにいま一つの空間を設けたものは中室とする）。玄室・前室・羨道のそれぞれを区画する間壁のうち、側壁から石室内面に突出し門状構成をなすものは玄門・前門と呼びたい。なお九州の大型複室構造石室のばあい、玄門・前門の前面に段違いにいま一つの立柱石を添えるものがあり、これを添石と仮称しておきたい。

また玄室と前室の天井部は高さを異にするのがふつうである。単室構造のばあい、天井石よりも1段低い部分を楣構造と呼ぶことがあるが、天井部高を異にする複室構造では混乱を招きやすい。そこで、玄門や前門上の天井石とは別に1段低くかけわたした石材のみを楣石と呼び、天井石と接してかけわたしたものを楣石a配置、天井石とのあいだに隙間を置いてかけわたしたものを楣石b配置と呼ぶ。

以上の名称は混乱した現状を整理するための提案にすぎず、よりふさわしい名称が提案されれば変更することにやぶさかではない。

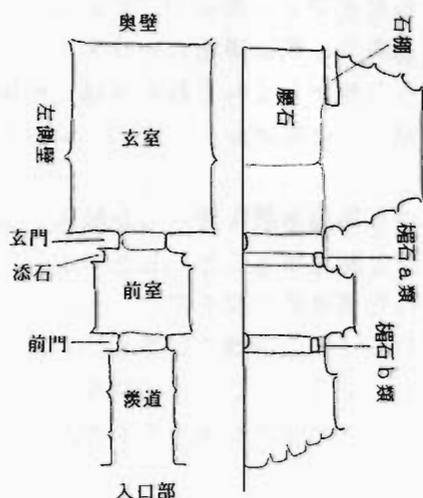


図2. 石室各部の名称

3. 石室構成要素の分類 (図3参照)

多様な石室構造の変化と地域性を読みとるためには、石室構成要素の組成をもとに基本形式変遷のなかに特徴的な石室型を認定し、それぞれの時間幅と空間幅を設定することが必要である。その作業のために、石室構造の特徴をあらゆる構成要素を抽出し、必要な範囲で細分し、その組み合わせの異同から石室の変化を整序化しておきたい。分類項目として採用した項目はつぎのとおりである。

- ①房室構成数、②複室区画法、③玄室平面形、④前室平面形、⑤石室断面形、⑥玄門構成、⑦前門構成、⑧使用石材、⑨腰石手法
以下、項目ごとに細分内容を記述する。

①房室構成数 (玄室を含めた房室的空間の数)。

2・・・玄室+前室

3・・・玄室+中室+前室

②複室区画法

玄門・前門、玄室構造などからⅠ～Ⅲの3種に大別。

Ⅰ：両袖式玄門をもつもの。前室と羨道間の区画法で4種に区分する。

a・・・両袖式前門。羨道幅が前室幅と等しい。

b・・・両袖式前門。羨道幅は前室幅よりも狭い。

c・・・素形両袖式。羨道幅は前室幅よりも狭い。

d・・・両袖式前門・素形の両袖式。玄門から前室前面にひらく。

e・・・片袖式前門、ないし素形の片袖式。

Ⅱ：片袖式玄門ないし片袖式で厚めの隔壁をもつもの

a・・・両袖式前門。

b・・・素形両袖式。

c・・・素形片袖式。

Ⅲ：石槨式石室・石槨風玄室に前室のつくもの。

a・・・両袖式玄門・両袖式前門。

b・・・玄門なし・両袖式前門。

c・・・玄門なし・素形の両袖式。

③玄室平面形

(上位区分) A～Cの3種に大別。(下位区分) 羽子板形・胴張形などの平面形態を1～7の7種に細別(胴張形の程度差は捨象する)。

(上位区分)

A：縦長長方形基調形式。

B：方形基調形式。

C：横長長方形基調形式

(下位区分)

1・・・矩形基調(1割程度の変形は捨象)。

- 2・・・奥壁から玄門に向かって狭まる（＝奥壁幅＞玄門部幅）。
- 3・・・奥壁から玄門に向かって広がる（＝奥壁幅＜玄門部幅）。
- 4・・・片袖式（平面形は問わない）。
- 5・・・胴張1（奥壁幅＝玄門部幅）
- 6・・・胴張2（奥壁幅＞玄門部幅）
- 7・・・胴張3（奥壁幅＜玄門部幅）

④前室平面形

（上位区分）③の上位区分と同じ。（中位区分）③の下位区分と同じ。

（下位区分）前室幅と玄室幅の相対比。a～cの3種に細別。

（下位）

- a：前室幅が玄室幅よりも小さい。
- b：前室幅と玄室幅がほぼ等しい。
- c：前室幅が玄室幅よりも大きい。

⑤石室縦断面形

（上位区分）基本形からa～dの4種に大別。（下位区分）細部の違いから1～6の6種に細別。

（上位）

- a：羨道は水平のまま玄室のみ高く構築する。無造作を基本形とする。
- b：玄室・前室とも高く構築する。無造作を基本形とする。
- c：玄室から羨道にいたるまで水平天井。無造作を基本形とする。
- d：玄室・羨道よりも前室を高く構築する。無造作を基本形とする。

（下位）

- 1・・・基本形（素形の天井構造）。
- 2・・・基本形＋玄門・前門天井に楣石を配置するか、羨道天井を1段高く架構する。
- 3・・・基本形＋玄門上に楣石を配置するか、前門・天井より1段低く天井を架構する。
- 4・・・基本形＋前門上に楣石を配置するか、玄門・羨道より1段低く天井を架構する。
- 5・・・基本形＋3＋羨道部天井を1段低く構築。

⑥玄門構成

（上位区分）岩種と加工から規定される石材形態。（中位区分）石材の配置法。

（下位区分）石材構成法。

（上位）

- 1：扁平板石（各種の片岩・砂岩・安山岩など、まれに花崗岩がある）
- 2：転石・塊石（各種の山石。一部、敲打・削りなどの加工石を含む）。
- 3：河原石（岩種は多様）。
- 4：切石（凝灰岩・砂岩・泥岩など。加工法と程度は問わない）

（中位）

- A：石材を石室主軸に直交して配置する。
- B：石材を石室主軸と平行して配置する。

（下位）

- 1・・・縦位に立てた1石で構成。

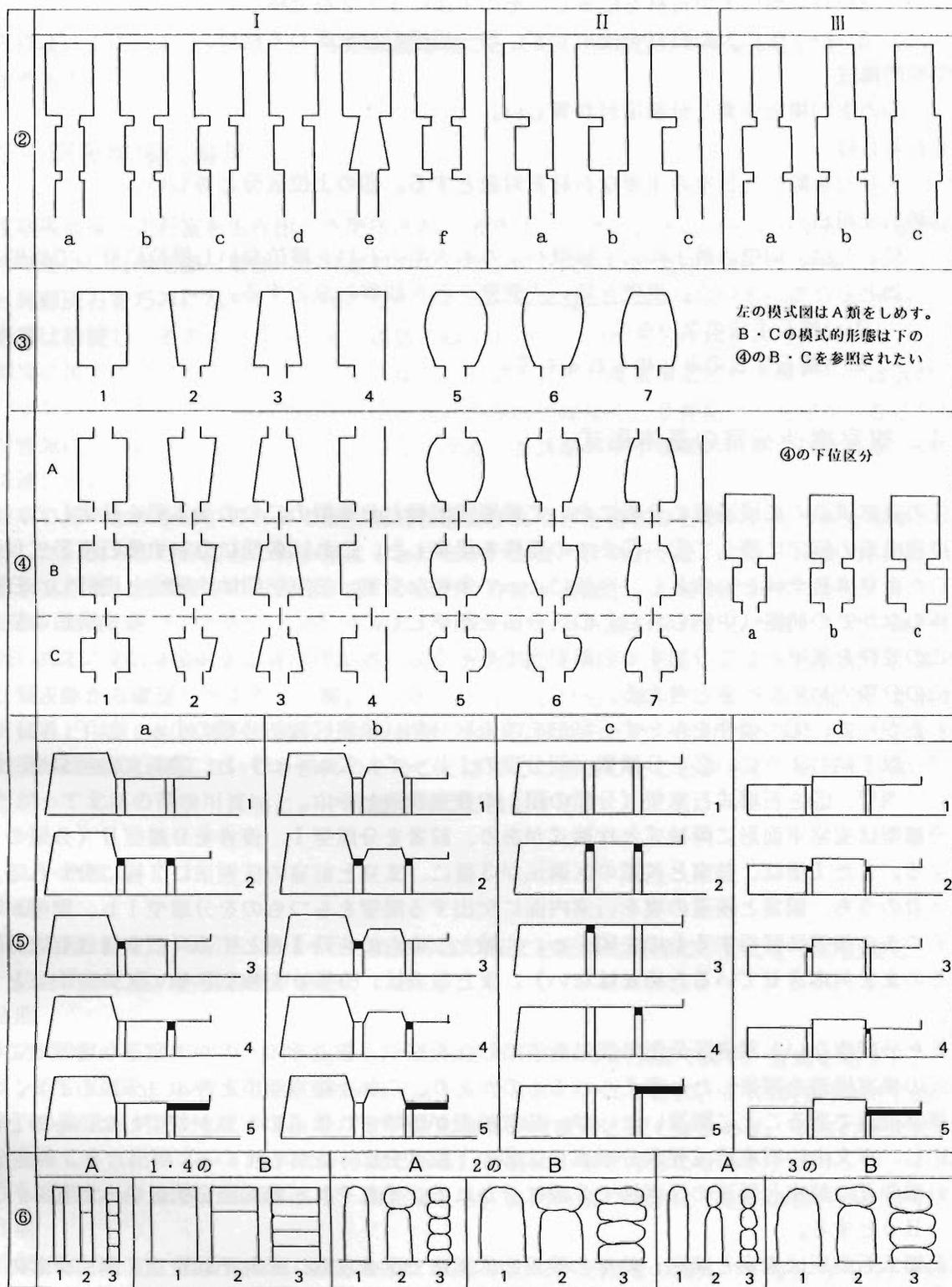


図3. 石室構成要素分類図 (①, ⑦, ⑧は省略した)

2・・・下部に大型石材を配置し、その上部に1・2石で構成。

3・・・下部に大型石材を使用せず、均一規模石材を重ねる構成。

⑦前門構成

⑤の玄門構成要素と分類項目が等しい。

⑧石室石材

天井石を除いた石室の主要な石材を対象とする。⑥の上位区分と等しい。

⑨腰石使用法

腰石とは、周壁の最下段に上部壁石よりも大型の石材を縦位ないし横位に立てて周壁基礎としたものをいう。奥壁を除いて側壁のみを観察対象とする。

0・・・腰石手法のないもの。

1・・・腰石手法のみとめられるもの。

4. 複室構造石室の基本形式

先の複室構造の形成過程の分析において羨道区画型と分離型の二つの基本形を設定した。また複室構造の認定に際して①～⑤までの要件を提案した。これは各地に分布する石室形式が採用した複室構造全体を対象とし、地域によって多様な玄室・前室形態は地域性と理解し、石室全体のなかでの前室（中室も含む）の区分法を基準としている。したがって、複室構造の型式はこの要件を基準として分類するのが妥当であろうし、地域的に異なる細部についてはさらに下位の分類で対応すべきと考える。

したがって、①の要件をみたま石室形を羨道区分型（複室区画法分類のⅠa。以下、同）と呼び、以下同じように、②を分離型（同分類のⅠb～f、Ⅱa～c）と、③を玄室区分型、④を全区画型、⑤を石槨式石室型（分類のⅢ）の複室構造と呼ぶ。

分離型は玄室平面形に両袖式と片袖式があり、前者を分離型Ⅰ、後者を分離型Ⅱ（分類のⅡ）とする。またⅠ型は、前室と羨道の区画法が3種に、玄室と前室の区画法に2種に分かれる。前3者のうち、前室と羨道の境を石室内面に突出する間壁をもつものを分離型Ⅰb、間壁がなくそのまま羨道に移行するものを同Ⅰc、片袖となるものを同Ⅰeとする（石室構成要素分類をそのまま対応させているためaはない）。また後者は、分類eを独立させて区分型Ⅰeとする。

また分離型ないし羨道区分型で羨道を省略した石室や、羨道そのものが未発達な地域でこの型式の複室構造を採用したと考えられるものがあり、これを複室亜型と呼ぶ（分類のf）。なお複室構造であることに間違いはないが、前室前面が破壊され羨道の有無が判明しないものとは区別し、本文末の石室構成要素分類表では②の下位区分に－を付している。

分離型Ⅱは前室と羨道の区画法で3種に分かれる。それぞれ石室区画法分類に沿ってⅡa、Ⅱb、Ⅱcとする。

石槨式石室型は玄室と前室、前室と羨道の区画法で区分され、それぞれ複室区画法分類に沿って石槨式石室型A、同B、同Cとしておきたい。

大柁は以上のとおりだが、2～4期は諸地域ごとの石室構造の多様な変化によって細分が可能である。

2. 肥後地域の編年

複室構造横穴式石室を生み出した肥後北部地域では、6世紀前葉に羨道区分型から分離型へ転換を遂げ、九州北部・東部へと分離型の複室構造横穴式石室は急速な勢いで展開した。その後も阿蘇灰石を巧みに加工し、九州のなかでもっとも整備な石室形態を生み出し、周辺地域への影響は継続し、その点で九州の複室構造の編年の定点となりうる性格をもつ。

確実に複室構造と認定できる石室は、現在のところ23例と複室構造成立の地としては異常なほど少ない。それは古墳の調査例が少ないという理由ではなく、6世紀代の高塚からなる群集墳が皆無にちかい（横穴墓がとってかわる）うえ、当該期の中小規模の円墳すら数少ない事情と関連している。

前章で述べたように、これまで複室構造と認定されてきた著名な石室のいくつかを複室から除外した。熊本市万日山と二軒小屋はI aにちかいが玄門状突出がないこと、山鹿市臼塚と玉名市永安寺東・西は複室の可能性が高いが前門の有無が未確定、を根拠に除外した。

従来、肥後の横穴式石室は北部・中南部とも同一の石室系譜を共有する地域として一体として語られることが多かった。しかし、高木恭二が刳抜式石棺から認定し〔高木：1987〕、筆者が石製表飾から確認したように〔柳沢：1987〕、4・5世紀の墓制のさまざまな面で、北部菊池川流域と中部白川流域～南部宇土半島基部・氷川流域はそれぞれ固有の地域性をもつ。初期の肥後型横穴式石室においても差異のあることはすでに指摘したことがある〔柳沢：1980〕。したがって北部の菊池川流域と、中南部に分けて検討する。

(1) 北部

1期

伝左山(図1-1)、塚坊主(図1-3)：複室構造の成立と定型化過程についてすでに記述したので、該当する2基の古墳名だけをあげておく。

2期

大坊(図版26-1)、チブサン(図版26-2)：大坊はTK10型式併行期（以下、型式を略す）、チブサンはTK10(古)～TK10(新)併行期（以下、TK10(古)はTK10、TK10(新)はMT85と呼ぶ）の須恵器が出土している。チブサンの玄室高が穹窿形に高くなるのは、単室の横穴式石室を含めて6世紀第2～3四半期の特徴である。前室は小型で方形になったチブサンが、大坊よりも定型化した形態と判断される。両石室とも、玄門前面の片側に不定形の添石が配置する。

3期

馬塚(図版26-3)、袈裟尾高塚(図版26-7)：玄室平面形が全段階の隅丸の不整長方（方）形から矩形の長方形に転換する段階である。馬塚・袈裟尾高塚とも側壁に腰石を使用するが、側壁全体にいたらない馬塚に古相を想定したい。石屋形以外に石室の壁体も阿蘇灰石を使用し始める。馬塚は独立型b類、袈裟尾高塚は羨道区分型で、前門が側壁から分離した構造である。石

第4章 複室構造横穴式石室の展開

1. 編年の枠組み

本研究で集成した九州の複室構造の総数 765基のなかで、実測図が公表されているものと実見してメモを作成した石室は 453例（全体の約6割）である。そのうち、石室が完存しすべての構成要素を観察できる資料はさらに少なく 176例にすぎない。先の石室構成要素のデータをコンピュータに入力し、いくつかの方法で石室構成要素を解析した結果、石室型式間のしめる比率と、立面構成法（天井構成法）など、石室型式の基本的な部分でつよい地域性を読みとることはできた。これまで視角的に一定の傾向として想定していたことがらをデータとして抽出できたのは有効であった。

しかし、石室細部の計測値データや側壁・奥壁の壁体構成法などを入力する余裕がなかったため、編年に有効なデータを得ることはできなかった。仮に石室細部のデータを入力したとしても、九州中北部に広く展開する多様な石室形式の複室構造全体をカバーすることは困難であろう。石室構造の多様性からみると、築造系譜を同じくする地域を単位とした地域内での型式変遷の設定が限度にちかい（同じ地域でも、群集墳と首長墳では石室規模の差だけでなく、石材の選択・加工法に、複室構造の構成法に明らかな違いがあり、型式変化が必ずしも対応しないこともある）。

したがって、以下の編年作業は石室形式を共通とする地域単位に行うが、複室構造成立以後の諸地域への展開過程を理解するために、徐々に進行する型式変化のなかで、九州全体に共通する画期によって基本的な編年の枠組みを設定しておきたい。

		須恵器の形式	主要古墳
1期	・羨道区分型の出現	T K 47 M T 15	伝左山・塚坊主
2期	・分離型bの出現 ・分離型cの出現	M T 10	大坊・チブサン (臼塚) (桂川王塚)
3期	・大型腰石採用の始まり ・石室の巨大化	M T 85 T K 43 T K 209	馬塚・五郎山 袈裟尾高塚・田代太田 乗場・竹原 橘塚・塚花塚 大野窟
4期	・平面方形玄室の出現 ・天井c類の出現	隼上りII 隼上りIII	弁慶ヶ穴・綾塚・岩戸山4号 砥上観音山・楠名・宮地嶽
5期	・石槨式石室型cの出現	飛鳥III	手光波切不動

屋形は側・奥壁をともなった独立型、馬塚の蓋石は家形である。ともに石屋形奥壁に2～3色を使用した連続三角文を描く。馬塚と袈裟尾高塚の玄門上にマグサ石b配置がみられる。出土した遺物から6世紀第2四半期末～3四半期と想定される。

4期

古段階) 弁慶ヶ穴(図版26-4)、オブサン(図版26-5)、八角目1号(図版26-8)、四ツ山(図版26-9)：石室全体が大型化する。腰石は側壁全体におよび、大型で背の高い使用法に変化する。石屋形は奥壁・側壁とも省略し蓋石を玄室の奥壁腰石・側壁腰石上に置くか壁体内に噛み合わせた組込み型へと変化している。玄門上の前壁の上部壁体高は小さく玄室天井高が低下し、前室天井高との比高が小さくなる。羨道のわからない四ツ山を除いて、すべての石室羨道幅が前室幅と等しい羨道区分型である。同時に、玄室から羨道までの幅がほぼ等しく全区画型にちかいが、側壁線が不安定である。オブサンからTK209併行期の須恵器が出土し、弁慶ヶ穴からTK43～TK209併行期〔宮代：1996〕に相当する馬具が出土しているから、この段階はおおむね6世紀第3四半期末～7世紀第1四半期と想定される。弁慶ヶ穴よりもオブサンが後出するのは石室形態から明らかである。

新段階) 江田穴観音(図版26-6)：古段階の諸石室よりも側壁線が安定しているため、全区画型としておく。石室壁体・天井石すべてに阿蘇灰石の大型切石を使用し、天井はc類にちかいが、わずかに玄室天井石の内面を抉って上部を表現している。玄門・前門とも刳抜きである。石室形態は古段階からの系譜上にあるが、石材加工・運用法は、すでに指摘されているように山陰の石棺式石室との関連で理解されるべきであろう〔角田：1993〕。出土遺物の詳細は明らかでないが、心葉形杏葉からTK209～TK217併行期と推定され〔角田：1996〕、7世紀第1～2四半期の築造と想定したい。

(中南部)

現在のところ、1期にさかのぼる複室構造は確認されていない。

2期

釜尾(図版7-5)：玄室は安山岩割石積み、不整の隅丸長方形プランである。幅の狭い羨道を突出した玄門と前門で区画した羨道区分型。前室の天井は不定形だが玄門・前門天井石よりも高く構築している。玄門は袖部に十分に組み込まれず玄室内面側に突出し、北部2期の手法にちかいかい。石屋形は安山岩の偏平な板石を組み合わせた独立型、内面に双脚輪状文が描かれる。また玄室袖石と玄門天井石下面にも連続三角文・連続山形文が描かれる。玄門天井石に壁画を描く手法は、福岡県吉井町日の岡古墳石室に連続三角文を描いた例がある。日の岡が複室構造か否か明らかでないが推定される築造年代が近接しており留意しておきたい。

3期

石川山2号(図版27-2)、石川山5号(図版27-1)、大野窟(図版27-8)：石川山2・5号は安山岩の塊石を壁体を使用する。5号は狭い羨道をわずかに突出した玄門と羨門で区画した羨道区分型、玄室平面形に前段階の特徴を残す。前室天井は前門に向かって高まり、前門上にb類マグサ石を配置する。分離型b類の2号は玄室側壁に大型の腰石を使用せず、不定形の長方形プランである。

4期

古段階) 大野窟(図版27-7)、石川山4号(図版27-3)、鬼の窟(図版27-4)、下御倉(図版27-6)

石室壁体の阿蘇灰石使用が一般化する。いずれの玄室も羨道高と等しい大型切石を腰石とする。このなかで注目されるのは、墳長約 100m と肥後後期の最大前方後円墳・大野窟の石室である。周壁すべてを阿蘇灰石で構築し、玄室から羨道端まで高さを揃えた背の高い腰石を配置する。玄室上部を高く穹窿形に高く持ち送り、奥壁と側壁腰石上に石棚をかけわたす。天井構造は a1 類、刳抜玄門前に添石を配置する。羨道下部が埋没し詳細のわからない上御倉を除いて、いずれも羨道区画型である。また天井構造も阿蘇の下御倉・上御倉を除いて a1 類を採用するのは、大野窟を頂点とする築造系譜がつよい影響力をもっていたことをしめすのであろう。引く地域性といえるだろう。玄門上の前壁高は漸次低下する。下御倉・上御倉の石屋形は独立型を保つが、鬼の窟・石川山 4 号の石屋形は北部の 4 期古段階と同じく組込み型と変化している。4 期は大野窟の築造を画期として設定している。大野窟の石室構造は、穹窿状に高く持ち送った玄室天井構造・玄室の長方形プランなどから最古に位置付けられ、北部地域を含めても 4 期のなかでは特異な存在といえるだろう。また早くから巨石・巨大石室として築造年代を下げる傾向にあったが、石室形態の築造系譜からは 6 世紀第 3 四半期にさかのぼる可能性をしてみたい。

(3) 要約

以上の構造変化を整理し、要点をまとめると次のとおりである。

1. 複室構造の成立と定型化は 1・2 期に北部菊池川流域ですすめられた。その段階に併行する中南部では、石障系石室の系譜を引く単室の横穴式石室が築造されている。たとえば千金甲 1・3 号墳などがその候補となる。中南部地域に複室構造が取り入れられるのは前室形態の定型化後のことである。中南部の初期の複室構造は、北部の石室構造そのものを採用したのではなく、在来の横穴式石室に複室構造の構成要素を取り入れた形態であった。初期の複室がとくに狭長な羨道の前後区分から始まったことがその間の経緯をしめしている（釜尾・石川山 5 号）。したがって、横穴式石室の複室構造化が肥後全体で進行した動きとして理解するのは妥当ではない。

2. 定型化後の 3 期は石室形態に大きな転換はないが、玄室周壁下部への腰石採用化がじょじょに進展し、不整の隅丸方形（長方形）から矩形の長方形への転換として位置づけられる。この間、石屋形はまだ独立型を保つ。全体的な石室築造技法は、北部と中南部の違いが解消される方向で、近似するようになる。

3. 北部・中南部に共通する石室形態の大転換以後を 4 期とした。その契機となったのは 4 期初頭に位置付けられる大野窟の築造に始まる。大野窟に類似する阿蘇・下御倉などは本期でも初期段階に位置付けることができる。大型腰石の使用、玄室天井部の低減化の方向性は、肥後独自の動きではなく、九州全域で並行的にすすんできごとである。

第5章 まとめにかえて（総括と今後の研究方向）

本研究の目的は、古墳時代後半期の日本列島に特異に分布する複室構造の横穴式石室について、その形成過程および各地域への展開過程を明らかにし、展開のシステムとその背景を探るものである。しかし、集成資料数が1000基あまりと予想をはるかに上回る結果となり、全体の成果を一度にとりまとめるのは困難となった。したがって、全国資料数の約80%をしめるだけでなく、複室構造を形成し、その後の広域展開の基点となった九州の資料と検討結果を九州編として刊行することにした。今後の複室構造研究の進展に、九州の基礎資料集成と石室構造分析の基礎的作業の提示は欠くことができないと考えたためである。

まず、前章までに述べてきたところを要約すると次のようになる。

古墳時代後半期の横穴式石室に日本各地で採用されるにいたった複室構造は、最初に九州の熊本県北部で成立し定型化に成功した。その形成と九州各地への展開過程はおおよそ次のようであろう。

複室構造の成立は現在知られている最古の伝左山古墳例を基にすると、5世紀後葉に天井部を架構し一定の長さをもつ羨道の接続手法が将来され、肥後型横穴式石室への採用にあつて、菊池川下流域を基盤とする造墓集団によって、玄室袖部の左右と羨道の中に石材を立てて羨道を前後に二分しての前室構成手法の発案に始まるらしい。同様な石室構造は唐津湾沿岸域の樋の口・淵上古墳にもみとめられるが、石室構築技法の直接伝播は情報だけでは不可能である。これらの石室構築にあたっては、菊池川下流域の造墓工人が関与した可能性がたかい。

6世紀前葉に、大坊古墳にみられる前室を羨道から分離する手法は、より広い前室空間構成に成功し、安定した前室形態として広く採用される段階に達したとみられる。大坊古墳段階で定型化した複室構造は、6世紀中葉を前後して肥後北部を基点に肥後南部、さらに九州北部へ急速な勢いで展開した。

複室構造地名表に付した築造年代をみれば明らかなように、6世紀中葉を前後する展開初期の複室構造は、有明海に沿って隣接する福岡県の筑後地方、佐賀県南部地方だけでなく、肥前の壱岐島や豊前北部にまで達している。おそらくこうした急速な展開は、これまで指摘されてきたような「磐井の乱」後の肥後勢力の拡張という側面も否定できないが、それだけでは広域の展開は説明は不十分であろう。

つぎに今後の研究方向を見通しておきたい。

概略を記したがまず必要なことは地域研究の枠を突破するために、全国の複室構造に対応できる石室型式の設定が必要である。そして、諸型式の分布傾向、各型式の消長過程、地域的差異、各型式間の連関と型式間の距離、関連の程度などを見極める必要があるだろう。

また、各地域での複室構造が他の石室構造に対してどのような位置をしめるのか、石室構造の階層性の様相と墓制と社会的構成の対応の意味を理解するためには、地域での具体的な検討が必要である。

複室構造という横穴式石室の一型式が、九州から東北地方南部まで広く展開する背景は何か。墓制構成要素がどのような意味と機能を付加されて移動・展開するのか、その社会的・政治的背景と展開システムの解明を見通した総合的な研究の推進が今後の課題であろう。

参考・引用文献一覧 [五十音順]

- 天羽利夫1973 「徳島県下における横穴式石室の一樣相」『徳島県博物館紀要』第4集)
- 天羽利夫1977 「徳島県下における横穴式石室の一樣相」『徳島県博物館紀要』第8集
- 天羽利夫1987 「阿波忌部の考古学的研究」『徳島県博物館紀要』第9集
- 池上悟1982 「南武蔵・多摩川流域における横穴式石室の導入と展開」『物質文化』39
- 池上悟1980 「東国における胴張り石室」『立正史学』47
- 池上悟1988 「野州石室考」『立正大学文学部論叢』88
- 石山勲1970 「鈴ヶ山1号墳」『九州縦貫自動車関係埋蔵文化財調査報告』Ⅲ (福岡県教育委員会)
- 出雲考古学研究会編1987 『石棺式石室の研究』
- 伊与部倫夫1989 「北陸地方の横穴式石室」『古文化談叢』20
- 緒方泉1992 「京都平野における複室墳の分布と展開」『考古学与生活文化』(同志社大学考古学シリーズV)
- 小田富士雄1968 「横穴式石室における複室構造の形成」『史淵』100
- 小田富士雄1980 「横穴式石室の導入とその系譜」『東アジアにおける日本古代史講座』第4巻(学生社)
- 乙益重隆1967 「熊本県万日山古墳」『考古学集刊』3-3
- 乙益重隆1974 「装飾古墳—その鎮魂の系譜」『装飾古墳と文様』古代史発掘8(講談社)
- 角田徳幸1993 「石棺式石室の系譜」『島根県考古学会誌』10周年特集号
- 角田徳幸1996 「江田穴観音古墳出土の杏葉について」『肥後考古』第9号
- 金井塚良一1975 「吉見百穴横穴墓群の歴史的検討」『吉見百穴横穴墓群の研究』(校倉書房)
- 熊本県教育委員会1994 『国指定史跡塚坊主古墳』(熊本県文化財整備報告書1)
- 古代学協会四国支部編1995 『古代学協会四国支部第9回徳島大会資料 四国における横穴式石室の成立と展開』
- 小林行雄1964 「装飾古墳の変遷」『装飾古墳』(平凡社)
- 小松譲1994 「杵島山麓に築造される二つの石室」『佐賀考古』第1号
- 白石太一郎1965 「日本における横穴式石室の系譜」『先史学研究』5
- 高木恭二1987 「九州の舟形石棺」『東アジアの考古と歴史』(同朋社)
- 田中広秋1989 「終末期古墳出現への動態Ⅰ」『研究紀要』第5号(埼玉県埋蔵文化財調査事業団)
- 田辺哲夫1965 「熊本県大坊古墳」『玉校考古学部部報』11号(熊本県立玉名高等学校考古学部)
- 高倉洋彰1984 「樋の口古墳」『末盧国』(六興出版)
- 田添夏喜1966 「伝左山古墳調査概報」『玉高考古学部部報』17号(熊本県立玉名高等学校考古学部)
- 千曲川水系古代文化研究所ほか編1989 『第10回三県シンポジウム 東日本における横穴式石室の受容』
- 帝塚山大学考古学研究所編1990 『横穴式石室を考える—近畿の横穴式石室とその系譜』
- 長嶺正秀1986 「山口南古墳群をめぐる諸問題」『山口南古墳群』(福岡県苅田町教育委員会)
- 西谷正1984 「淵上古墳」『末盧国』(六興出版)
- 土生田純之1980 「伯耆における横穴式石室の受容」『古文化論叢』7
- 土生田純之1983 「九州の初期横穴式石室」『古文化論叢』12
- 土生田純之1988 「西三河の横穴式石室」『古文化談叢』20(上)
- 土生田純之1991 「研究法の検討」『日本横穴式石室の系譜』(学生社)
- 広瀬和雄1995 「横口式石槨の編年と系譜」『考古学雑誌』80-4
- 堀田啓一・前園実知雄編1994 『舞谷古墳群の研究』(奈良橿原考古学研究所ほか)
- 水野正好1969 「滋賀郡所在の漢人系帰化氏族とその墓制」『滋賀県文化財調査報告』第4冊
- 松本健郎1970 「複室墳の諸問題—熊本県菊池川流域—」『熊本史学』第37号
- 松本肇・佐田茂1972 「九州複室構造横穴式石室地名表」『九州縦貫自動車関係埋蔵文化財調査報告』Ⅲ (福岡県教育委員会)
- 宮代栄一1996 「熊本県出土の馬具の研究」『肥後考古』第9号
- 森浩一1967 「岩橋千塚の横穴式石室」『岩橋千塚』(関西大学文学部考古学研究室)
- 森下浩行1986 「日本における横穴式石室の出現とその系譜—近畿型と九州型」『古代学研究』111号
- 柳沢一男1980 「肥後型横穴式石室考」『鏡山猛古稀記念古文化論叢』
- 柳沢一男1982 「豎穴系横口式石室再考」『森貞次郎博士古稀記念古文化論集』
- 柳沢一男1987 「石製表飾考」『東アジアの考古と歴史』(同朋社)
- 山崎信二1986 「横穴式石室の地域別比較研究—中・四国編—」

ENGLISH SUMMARY

This research project examined a unique type of horizontally tunneled burial chambers associated with *kofuns* (mounded tomb) in the late *Kofun* period. The objective of this project is to trace the development and expansion of this type of chambers with multiple-chamber structure.

By analyzing tunneled chambers in the lower Kikuchi River area in northern Kumamoto prefecture, the study showed that tunneled chambers with multiple-chamber structure were derived from the *Higo* type of tunneled chambers by modifying the access passage portion to the chamber. While many scholars have believed that tunneled chambers with multiple-chamber structure were of Korean Peninsula origin, this study suggests that this particular type was created in Kyushu.

The style of these chambers was not standardized for a while. About 50 years or so later with trials and errors, however, the style was established itself as a chamber type in the early sixth century. After that establishment, techniques to build chambers of the style quickly spread in northern and eastern Kyushu.

Burial chambers with multiple-chamber structure were first used mainly in mounded tombs for regional chiefs. In the late Sixth century, large tombs in local group cemeteries (the areas of aggregated tombs) actively adopted this style. This indicates that power hierarchies were expressed not only in the size of burial chambers, but in the presence of multi-chambered style. In the final phase of the *Kofun* period, even small tombs belonging to lower hierarchies had the chambers of this style in clustered tomb groups. This fact indicates a change in the symbol of hierarchy expressed by the multi-chambered style. This change is probably accounted for by an "emulation process," in which groups of lower status actively adopt behavior patterns and material symbols from groups of higher status.

KEYWORDS:

1. the *Kofun* period
2. burial custom
3. horizontally tunneled burial chamber
4. hierarchy
5. locality

複室構造横穴式石室地名表（付・石室構成要素分類一覧）

- 凡例
1. 地名表は基本的に旧国別に分けたが、地域的に細分したところと統合したところがある。
 2. 墳形・規模の項目欄の、前円は前方後円墳、円は円墳、方は方墳の略である。墳丘規模の単位はmである。
 3. 石室構成要素分類表の内容は、第3章、および図3を参照されたい。
 4. 文献覧の番号は、各地域地名表の後ろに付した文献番号に一致する。
 5. 図版番号欄の数字は、本書末に付した図版番号に一致する。対照されたい。
 6. 備考欄の▲は楯石をあらわし、a・bはその配置法をあらわす。詳しくは第3章を参照されたい。同じく備考欄の*は、各自治体によって発掘調査された資料である。未公表資料を提供された関係各位にお礼申しあげたい。
-

目 次

- 地名表1. 北豊前I(福岡県)
- 地名表2. 北豊前II(福岡県)
- 地名表3. 北豊前III(福岡県)
- 地名表4. 筑前I(福岡県)
- 地名表5. 筑前II(福岡県)
- 地名表6. 筑前III(福岡県)
- 地名表7. 筑前IV(福岡県)
- 地名表8. 筑前V(福岡県)
- 地名表9. 筑前VI(福岡県)
- 地名表10. 筑後I(福岡県)
- 地名表11. 筑後II(福岡県)
- 地名表12. 筑後III(福岡県)
- 地名表13. 筑後IV(福岡県)
- 地名表14. 肥前I(佐賀県)
- 地名表15. 肥前II(佐賀県)
- 地名表16. 肥前III(佐賀県)
- 地名表17. 肥前・杵岐(長崎県)
- 地名表18. 肥後(熊本県)
- 地名表19. 南豊前・豊後(大分県)

地名表 1. 北豊前 I (福岡県)

No.	古墳名	所在地	墳形・規模	築造年代	石室構成分類									文献	図版	備考
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨			
1	黒部6号墳	豊前市大字松江	円・16.2	7/1	2	I b	C1	C1a	-	2B1	2B1	2	1	1	1-3	
2	黒部7号墳	豊前市大字松江	円・18	6/4-7/1	2	I b	B1	C1a	-	-	-	2	1	1		
3	黒峰尾10号墳	豊前市大字松江	円・11	6/4-7/1	2	I a	A1	C1a	-	-	-	2	1	2		
4	天仲寺古墳	築上郡吉富町大字広津	円・22.5	7/1-2	2	I c	A1	C1a	a5	2A1	2A1	2	1	3	1-4	
5	桑野題2号墳	築上郡新吉富村大字字野	円・11	6/3	2	I b	A1	C1a	a1	2A1	2B1	2	1	4	1-5	
6	上ノ熊1号墳	築上郡太平村大字下唐原	円・18	6/3-4	2	I b	A1	C1a	b1	2A1	2B1	2	1	5	1-2	
7	穴ヶ築3号墳	築上郡太平村大字下唐原	円・18	6/4	2	I b	A1	C1a	b1	2b1	2a1	2	1	6	1-1	線刻
8	皿山5号墳	築上郡太平村大字下唐原	円・15		2									7		
9	地藏院北1号墳	京都府犀川町大字花熊	円・?		2									8		
10	地藏院北2号墳	京都府犀川町大字花熊	円・?		2									8		
11	谷口3号墳	京都府犀川町大字谷口	?		2	I b	A1	C1a	-	2A2	2A-	2	1	9	1-7	
12	谷口大無田古墳	京都府犀川町大字谷口字大無田	円・14.7	6/4-7/1	2	I b	A1	C1b	c2	2A2	2A1	2	1	9	1-8	
13	木山平3号墳	京都府犀川町大字木山字木山平	円・8.8	7/1	2	I c	B1	A1a	a1	2A2	2A2	2	1	10	1-6	
14	八景山山麓4号墳	京都府豊津町大字国作	円・17.3		2									11		
15	八景山山麓5号墳	京都府豊津町大字国作	円・12.7		2									11		
16	八景山山麓6号墳	京都府豊津町大字国作	円・16.5		2									11		
17	甲塚方墳	京都府豊津町大字国作	方・46×36	6/3-4	2	I b	A1	C1a	-	2A1	2A-	2	1	12	2-1	
18	八景山南2号墳	京都府豊津町大字甲塚	円・?	6/3-4	2									11		
19	八景山南3号墳	京都府豊津町大字甲塚	円・?	6/3-4	2									11		
20	八景山南4号墳	京都府豊津町大字甲塚	円・15	6/4	2									11		
21	八景山南5号墳	京都府豊津町大字甲塚	円・7		2									11		
22	甲塚北古墳	京都府豊津町大字甲塚	円・20	6/4	2									11		
23	大塚北3号墳	京都府豊津町大字節丸	円・7		2									11		
24	大塚南1号墳	京都府豊津町大字節丸	円・20	6/4	2									11		
25	大塚南3号墳	京都府豊津町大字節丸	円・12		2									11		
26	山口1号墳	京都府豊津町大字節丸	円・?		2									11		
27	山口2号墳	京都府豊津町大字節丸	円・?		2									11		
28	山口4号墳	京都府豊津町大字節丸	円・?		2									11		
29	山口6号墳	京都府豊津町大字節丸	円・11		2									11		
30	山口7号墳	京都府豊津町大字節丸	円・8		2									11		
31	山口8号墳	京都府豊津町大字節丸	円・?		2									11		
32	北垣1号墳	京都府豊津町大字節丸	円・8.5	6/2-3	2	I b	A1	A3a	a3	2A2	2A2	2	0	13	1-9	
33	北垣2号墳	京都府豊津町大字節丸	円・12.7	6/3-4	2	I c	A1	C1a	b1	2A1	2A2	2	1	13	1-11	
34	北垣4号墳	京都府豊津町大字節丸	円・9.8	6/3	2	I b	A2	C2a	a1	2A2	2B2	2	1	13	1-10	
35	北垣5号墳	京都府豊津町大字節丸	円・11.6	6/3	2	I b	A1	C1a	a1	2A2	2A2	2	1	13	1-12	
36	北垣6号墳	京都府豊津町大字節丸	円・12.4	6/2-3	2	I-	A3	-	-	2A1		2	1	13		前室一部未掘
37	北垣8号墳	京都府豊津町大字節丸	円・11	6/3-4	2	I c	A5	C3a	-	2A2		2	1	13	1-14	
38	北垣9号墳	京都府豊津町大字節丸	円・9.1	6/4-7/1	2	I c	B1	C1a	-	2A-		2	1	13	1-13	
39	徳永川上-10号墳	京都府豊津町大字徳永	円・?		2											*
40	綾塚古墳	京都府勝山町大字中黒田	円・45	7/1-2	2	I a	B1	B1a	c2	2A1	2A1	2	1	14	2-3	剝抜石棺・壁画
41	橋塚古墳	京都府勝山町大字上黒田	方・38-41	6/4-7/1	2	I a	A1	A1a	b1	2A1	2A1	2	1	14	2-2	
42	庄屋塚古墳(前方部)	京都府勝山町大字下黒田	前円・90	6/3	2	I c	A1	C2a	b3	2A2		2	1	15	1-15	玄門▲a
43	御青木池南1号墳	京都府勝山町大字下黒田	円・20		2											
44	三ツ塚1号墳	京都府勝山町大字下黒田	円・20		2											
45	五位ノ木池西1号墳	京都府勝山町大字中黒田	円・15		2											
46	五位ノ木池西3号墳	京都府勝山町大字中黒田	円・15		2											
47	五位ノ木池西4号墳	京都府勝山町大字中黒田	円・15		2											
48	二又池南1号墳	京都府勝山町大字中黒田	円・20		2											
49	小堤池北2号墳	京都府勝山町大字中黒田	円・20		2											
50	小堤池北3号墳	京都府勝山町大字中黒田	円・15		2											
51	小堤池北4号墳	京都府勝山町大字中黒田	円・20		2											
52	小堤池北5号墳	京都府勝山町大字中黒田	円・20		2											
53	小堤池北8号墳	京都府勝山町大字中黒田	円・15		2											
54	勝山2号墳	京都府勝山町大字中黒田	円・20	6/3	3	I b	A1	A1a	b1	2A2	2A2	2	1			
55	勝山3号墳	京都府勝山町大字中黒田	円・20	6/4	3	I b	A1	A1a	b1	2A2	2A2	2	1			

地名表2. 北豊前II(福岡県)

No.	古墳名	所在地	墳形・規模	築造年代	石室構成分類									文献	図版	備考	
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨				
56	一ノ塚古墳	京都府勝山町大字中黒田	円・30		2												
57	勝山池西4号墳	京都府勝山町大字中黒田	円・20		2												
58	勝山池西9号墳	京都府勝山町大字中黒田	円・15	7/1	2												
59	浄古庵1号墳	京都府勝山町大字中黒田	円・15	6/3-4	2												
60	亀田道4号墳	京都府勝山町大字鳥越	円・15		2												
61	トウテ池南1号墳	京都府勝山町大上野	円・15		2												
62	下田神社古墳	京都府勝山町大下田	円・20		2												
63	下田南1号墳	京都府勝山町大下田	円・20	6/4	2												
64	下田南2号墳	京都府勝山町大下田	円・20	6/3-4	2												
65	下田南3号墳	京都府勝山町大下田	円・20	7/1	2												
66	上久保1号墳	京都府勝山町大字上久保	円・20	6/4-7/1	2												
67	福丸1号墳	行橋市大字福丸字引石	円・?	?	2												16
68	徳永泉古墳	行橋市大字徳永字泉	?	7/1	2												16
69	夫婦塚古墳	行橋市大字徳永字杉ノ本	円・?		2												16
70	安楽寺西南1号墳	行橋市大字才覚	円・?		2												16
71	安楽寺西南2号墳	行橋市大字才覚	円・?		2												16
72	別所原1号墳	行橋市大字才覚字別所原	円・?		2												16
73	パンリュウ古墳	行橋市大字才覚字火ノ柱	円・約30	6/3-4	3	I b	A1	A1a	b1	2A1	2A1	2	1				16
74	タモト水1号墳	行橋市大字才覚タモト水	円・?		2												16
75	タモト水2号墳	行橋市大字才覚タモト水	円・?		2												16
76	タモト水4号墳	行橋市大字才覚タモト水	円・?		2												16
77	御清水池西1号墳	行橋市大字才覚タモト水	円・?		2												16
78	御清水池西2号墳	行橋市大字才覚タモト水	円・?		2												16
79	下原古墳	行橋市大字長尾	円・?		2												16
80	天サヤ池西1号墳	行橋市才覚	円・?		2												16
81	天サヤ池西2号墳	行橋市才覚	円・?		2												16
82	杉ノ木茶臼山古墳群	行橋市大字大谷字杉ノ木	円・?		2												16
83	杉ノ木妙見古墳	行橋市大字大谷字杉ノ木	円・?		2												16
84	杉ノ木古寺ノ上古墳	行橋市大字大谷字杉ノ木	円・?		2												16
85	生目神社境内古墳	行橋市大字元永字上の山	円・?		2												16
86	隼人塚古墳	行橋市大字高瀬	前円・39	6/4	2	I b	A1	C1b	a5	2A2	2A2	2	1	17	2-4		
87	稲童赤迫2号墳	行橋市大字稲童字赤迫	円・?		2												16
88	竹並D-4号墳	行橋市大字竹並	円・15	7/1	2	I b	B1	B1a	c2	2B1	2B1	2	1	18	3-2		
89	竹並D-5号墳	行橋市大字竹並	円・9.5	6/4	2	I b	B4	B1a	-	2B1	2B-	2	1	18	2-6		
90	竹並D-6号墳	行橋市大字竹並	円・11	6/4-7/1	2	I b	A1	C1a	b5	2B1	2B1	2	1	18	3-1		
91	竹並D-7号墳	行橋市大字竹並	円・11.7	6/4-7/1	2	I b	B1	B1a	a1	2A1	2A1	2	1	18	2-7		
92	渡築紫3号墳	行橋市大字稲童	円・12.3	7/1-2	2	I b	A1	A1a	-	2A2	2A-	2	1	19	2-5		
93	渡築紫25号墳	行橋市大字稲童	円・9.2	?	2	I b	C1	B1b	-	-	-	-	-	19			
94	稲童4号墳	行橋市大字稲童	円・13	6/4-7/1	2	I a	B2	C2a	-	2A1	2A1	2	1	20			
95	富久-6号墳	京都府刈田町大字富久	円・13	7/1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	21			石材採取
96	恩塚古墳	京都府刈田町大字新津	円・25	6/4	2	I a	A1	C1a	b1	2A1	2A1	2	1	22	3-3		
97	イノ山1号墳	京都府刈田町大字	円・12.6		2												
98	山口南1号墳	京都府刈田町大字	円・26	6/4-7/1	2	II a	A4	C1a	c5	2A1	2A1	2	1	22	3-5		
99	山口南2号墳	京都府刈田町大字	?	7/1-2	2	I b	C2	C1a	c5	2A1	2A1	2	1	22	3-6		
100	トキワ1号墳	京都府刈田町大字	?		2												
101	雨窪古墳	京都府刈田町大字若久	円・20-30	6/4	2	I b	A1	B1a	a1	2A1	2A1	2	1	23	3-4		
102	日明一本松塚古墳	北九州市小倉北区日明3丁目	円・15	7/1-2?	2	I-	C1	B2a	b1	2B1	2B2	2	1	24-25	3-9	壁画	
103	大畠1号墳	北九州市小倉北区大畠3丁目	円・14	6/4-7/1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	26			
104	玉塚古墳	北九州市小倉南区大字徳力	円・14	6/3-4	2	I-	A1	C1a	b1	2A2	2A2	2	1	27	3-8		
105	八旗1号墳	北九州市小倉南区長尾4丁目	円・10		2									28			
106	上清水D区3号墳	北九州市小倉南区大字横代	円・14.5	7/1-2	2	I-	A-	C1a	-	-	-	2	1	30			石材採取
107	下長野1号墳	北九州市小倉南区長野本町	円・8	6/4-7/1	2	I-	B1	B1a	-	B1	B-	2	1	28			
108	下吉田4号墳	北九州市小倉南区大字吉田	?		2									25-29			
109	下吉田6号墳	北九州市小倉南区大字吉田	?		2									25-29			
110	下吉田15号墳	北九州市小倉南区大字吉田	?	6/3-4	2	I a	A1	B1a	b1	2A2	2A2	2	1	25-29	3-7		

地名表3. 北豊前川(福岡県)

No.	古墳名	所在地	墳形・規模	築造年代	石室構成分類									文献	図版	備考
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨			
111	下吉田34号墳	北九州市小倉南区大字吉田	円・14	7/1-2	2	I b	C1	B1a	-	2A-	2B-	2	1	31	3-10	
112	八王子志摩村山古墳	北九州市八幡西区八王子町	?	6/3-4	2									28		
113	伊方古墳	田川郡方城町伊方	円・?	7/1	3	I b	A1	A1b	b1	2A1	2A1	2	1	32	4-7	
114	夏吉1号墳	田川市夏吉御手水	円・14.2	6/4-7/1	2	I c	B1	B1a	b5	2A2	2A2	2	1	33・36	4-4	変形石棚
115	夏吉2号墳	田川市夏吉林田	円・20	6/4-7/1	2	I b	A1	A1a	b2	2A1	2B1	2	1	33・34	4-3	
116	夏吉3号墳	田川市夏吉林田	円・20	6/4	2											
117	夏吉4-1号墳	田川市夏吉金山	円・22	6/4	2	I b	A1	B2a	b2	2A1	2A1	2	1	34	4-2	
118	夏吉7号墳	田川市夏吉金山	円・20	6/4-7/1	2											
119	夏吉21号墳	田川市夏吉足黒	円・25	6/4-7/1	2	I b	A1	A1a	b2	2A2	2A2	2	1	36	4-5	
120	夏吉32号墳	田川市夏吉カネヒラ	円・20	6/4-7/1	2											
121	夏吉34号墳	田川市夏吉カネヒラ	円・22	6/4-7/1	2											
122	夏吉35号墳	田川市夏吉清瀬	円・26	6/3-4	2	I-	A2	C2a	a1	2A2		2	1	37	4-1	
123	上の原古墳	田川市楠上の原	円・20	6/4-7/1	2	I b	C1	C1b	c2	2A2	2A1	2	1	38	4-8	
124	轟尾古墳	田川市伊田轟尾	円・22	6/4-7/1	2									39		
125	建徳寺2号墳	田川郡大任町字今任原	円・20	6/4-7/1	2											
126	松ヶ迫1号墳	田川郡糸田町大字中糸田	円・?		2											
127	松ヶ迫2号墳	田川郡糸田町大字中糸田	円?・20?	6/4-7/1	2	I a	A	C2	-	2A-	2A-	2	1	40	4-6	

【文献】

- 1) 酒井仁夫ほか1979『黒部古墳群』(玄洋開発株式会社)
- 2) 緒方泉1993『黒峰尾10号墳』『豊前市史』資料編(豊前市)
- 3) 酒井仁夫編1983『天仲寺古墳・広運寺古墳』(吉富町教育委員会)
- 4) 高橋章編1989『桑野題古墳』(新吉富村教育委員会)
- 5) 上野精志・小池史哲編1978『上ノ熊古墳群』(太平村教育委員会)
- 6) 酒井仁夫編1985『穴ヶ葉古墳群』(太平村教育委員会)
- 7) 福岡県教育委員会編1976『福岡県遺跡等分布地図(豊前市・築上郡)』
- 8) 福岡県教育委員会編1976『福岡県遺跡等分布地図(行橋・京都郡編)』
- 9) 浜田信也編1975『木山廃寺』(犀川町教育委員会)
- 10) 飛野博文編1988『木山平遺跡』(犀川町教育委員会)
- 11) 川本義継1985『遺跡』『豊津町誌』(豊津町)
- 12) 末永弥義・長嶺正秀1994『甲塚方墳』(豊津町教育委員会)
- 13) 末永弥義編1995『北垣古墳群』(豊津町教育委員会)
- 14) 梅原末治1937『日本古墳巨大石室聚成』『京都帝国大学文科大学考古学研究所報告』第14冊(京都帝国大学)
- 15) 小田富士雄1979『横穴式石室における複室構造の形成』『史淵』100
- 16) 福岡県教育委員会編1976『福岡県遺跡等分布地図(行橋・京都郡編)』
- 17) 川本義継・長嶺正秀1982『隼人塚古墳』(行橋市教育委員会)
- 18) 竹並遺跡調査会編1979『竹並遺跡』弥生・古墳編(東出版寧楽社)
- 19) 小川秀樹・村上智恵子1994『渡築紫遺跡』(行橋市教育委員会)
- 20) 大川清編1969『福岡県行橋市稲童古墳群第1次調査抄報』(蔵内考古学研究所)
- 21) 長嶺正秀編1992『富久遺跡』(刈田町教育委員会)
- 22) 末永弥義・長嶺正秀ほか1986『山口南古墳群』(刈田町教育委員会)
- 23) 長嶺正秀編1992『若久遺跡』(刈田町教育委員会)
- 24) 小田富士雄1988『日明・一本松古墳調査報告』『まがたま』(福岡県立小倉高等学校考古学部)
- 25) 小田富士雄編1976『北九州市の埋蔵文化財』(北九州市教育委員会)
- 26) 小方泰弘1995『大島遺跡(第3区)』『埋蔵文化財調査室年報』11(北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室)
- 27) 栗山伸司ほか1984『玉塚古墳の測量調査』(北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室)
- 28) 小田富士雄1985『先史・原始』『北九州市史』(北九州市)
- 29) 小田富士雄・真野和夫1972『小迫遺跡・下吉田古墳群調査報告』(北九州市教育委員会)
- 30) 山口信義編1991『上清水遺跡Ⅱ区』(北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室)
- 31) 前田義人編1983『下吉田古墳群』(北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室)
- 32) 黒野肇・植田辰生1969『歴史編(二)古墳時代(2)古墳時代の遺跡と遺物』『方城町史』(方城町)
- 33) 花村利彦1974『古墳文化時代の田川』『田川市史』上巻(田川市)
- 34) 小方泰宏1982『夏吉2号墳測量調査報告』『田川歴史資料集(1)』(田川歴史懇話会)
- 35) 柳田康雄1983『夏吉古墳群の調査』『夏吉古墳群・清瀬横穴群・伊田狐塚横穴群』(田川市教育委員会)
- 36) 小方泰宏1987『夏吉古墳群の歴史的位置』『郷土田川』30号(田川郷土研究会)
- 37) 小方泰宏1991『夏吉35号古墳測量調査報告』『郷土田川』34号(田川郷土研究会)
- 38) 田代健二編1992『上の原古墳』『楠・上の原遺跡』(田川市教育委員会)
- 39) 上野智裕編1989『轟尾横穴墓群』(田川市教育委員会)
- 40) 伊崎俊秋編1982『松ヶ迫2号墳』(糸田町教育委員会)

地名表4. 筑前I (福岡県)

No.	古墳名	所在地	墳形・規模	築造年代	石室構成分類									文献	図版	備考	
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨				
1	宮脇古墳	飯塚市大字川島字宮ノ脇	前円・35	6/3	2	I	-	A1	Cl a	-	2A-		2	1	1	4-9	
2	川島1号墳	飯塚市大字川島字荒巻	円・17	6/4	2	I	c	A1	B1 a	b1	2B2	2B2	2	1	2	5-1	石棚
3	川島2号墳	飯塚市大字川島字荒巻	円・16	6/4-7/1	2	I	e	A1	A-a	b-	2A2	2B-	2	1	2	5-3	
4	川島3号墳	飯塚市大字鯉田字砂入	円・25	6/4	2	I	b	A1	B1 a	b-	2B2	2B2	2	1	3	5-2	
5	川島4号墳	飯塚市大字鯉田字砂入	円・20	6/4-7/1	2	I	e	A1	A4 a	b1	2B2	2B2	2	1	4	5-5	
6	川島11号墳	飯塚市大字川島字荒巻	円・14	6/4	2	I	c	A1	Cl a	b1	2B2	2B2	2	1	5	5-4	石棚・壁画
7	羅漢山1号墳	飯塚市大字下三緒字ラカン山	円・?	6/3	2	I	-	A1	Cl a	-	2A2		2	1	6	5-6	
8	伊川1号墳	飯塚市大字伊川字天神浦	円・9.5	6/3	2	I	-	A3	B1 a	b-	2A2	2A2	2	1	7	4-11	
9	伊川2号墳	飯塚市大字伊川字天神浦	円・11	6/3	2	I	c	A1	B1 a	b1	2B2		2	1	7	4-10	
10	仁保4号墳	嘉穂郡庄内町大字仁保字人形	円・10	7/1	2	I	b	C1	A1 a	b1	2A2	2B2	2	1	8	5-8	
11	うらんやま古墳	嘉穂郡穂波町大字津原字村中	円・10	6/-7/1	2	I	b	B2	Cl a	b1	2A1	2A2	2	1	9	5-7	
12	新行坊古墳	嘉穂郡嘉穂町大字牛隈字新行	円・16.5	6/4	2	I	b	A1	Cl a	b-	2A1	2A2	2	1	10	4-12	
13	二本桶1号墳	嘉穂郡嘉穂町大字馬見字二本桶	円・?	6/4	2										11		
14	火ノ尾1号墳	鞍手郡鞍手町大字新延字火ノ尾	円・20	6/3	2	I	b	A3	Cl a	b-	2A2	2B2	2	1	12	5-10	
15	松ヶ元6号墳	鞍手郡鞍手町大字古門字松ヶ元	円・?	7/1	2	I	a	A1	B1 a	-	2A2	2A2	2	1	13	6-10	
16	長目崎1号墳	鞍手郡鞍手町大字室木字長目崎	円・13	6/4	2	-	A1	-	-	A-	-	-	2	1	14	7-11	前室前半破壊
17	新延小学校古墳	鞍手郡鞍手町大字新延	円・?	6/4	2	I	b	A1	B1 c	c2	2A2	2A2	2	1	15	5-9	
18	乙ヶ谷1号墳	鞍手郡鞍手町大字新延	円・10	6/4	2	I	c	A1	A1 c	-	-	-	2	1	12		
19	新延大塚古墳	鞍手郡鞍手町大字新延	円・30	6/3-4	2	I	b	A1	B1 a	b-	2A2	2A2	2	1	16	5-11	
20	高木A-1号墳	鞍手郡鞍手町大字新北字高木	円・8	6/4-7/1	2	I	b	C1	B1 a	-	2A2	2A2	2	1	17	6-8	
21	高木A-2号墳	鞍手郡鞍手町大字新北字高木	円・13	6/4-7/1	2	I	c	C1	C2 a	-	2A-	2A-	2	1	17	6-7	
22	旭1号墳	鞍手郡鞍手町大字八尋字旭	円・?	7/1	2	I	-	B1	B1 a	-	2A2	2B-	2	1	17	6-5	
23	旭2号墳	鞍手郡鞍手町大字八尋字旭	?	7/1	2	I	-	B1	Cl a	a4	2A2	2A2	2	1	17	6-6	
24	安城1号墳	鞍手郡鞍手町大字八尋安城	円・?	6/3	2	I	-	A1	A1 a	-	2A2	2-	2	1	18	6-4	
25	銀冠塚古墳	鞍手郡鞍手町大字八尋大谷	円・18	6/4	2	I	b	A1	B1 c	-	2A2	2A-	2	1	19	6-2	
26	薄井1号墳	鞍手郡鞍手町大字八尋字薄井	円・?	6/3	2	I	b	A1	Cl a	-	2A2	2A2	2	1	12	6-3	
27	高平1号墳	鞍手郡宮田町大字上有木字高平	円・18	6/3	2	I	c	-	Cl a	-	2B2		2	1	20		
28	汐井掛4号墳	鞍手郡宮田町大字上有木	円・12	6/4-7/1	2	I	b	A1	Cl a	-	2A2	2A2	2	1	20	6-13	
29	汐井掛9号墳	鞍手郡宮田町大字上有木	円・10	6/3-4	2	I	b	A1	Cl a	-	2A2				20	6-15	
30	百塚1号墳	鞍手郡宮田町大字上有木	円・13	6/4	2										21-22		
31	松ヶ元1号墳	鞍手郡宮田町大字倉久字下春	円・11	6/4-7/1	2	I	c	B1	Cl a	-	2A2	2A2	2	1	23	6-9	
32	松ヶ元2号墳	鞍手郡宮田町大字倉久字下春	円・10	6/4-7/1	2	I	c	B1	A1 a	c5	2A2	2A2	2	1	23	6-11	
33	中ノ浦古墳	鞍手郡宮田町大字中ノ浦	円・20	6/4	2	I	b	A3	Cl a	b4	2A2	2A2	2	1	24	7-5	
34	南ヶ浦1号墳	鞍手郡宮田町大字中有木	円・13		2	I	-	A-	-	-	-	-	1	25		石材採取	
35	南ヶ浦2号墳	鞍手郡宮田町大字中有木	円・13	6/3	2	I	-	A3	Cl a	-	2B2	2B2	2	1	25	7-2	
36	南ヶ浦3号墳	鞍手郡宮田町大字中有木	?	6/4	2	I	e	A1	C4 a	-	2B2	2A1	2	1	25	7-3	
37	南ヶ浦4号墳	鞍手郡宮田町大字中有木	円・13	6/3	2	I	c	A1	Cl a	-	2A2	2B2	2	1	21	7-1	
38	本白2号墳	鞍手郡宮田町大字本城字本白	円・?	6/3	2	I	b	A1	Cl a	b1	2A2	2A2	2	1	21	7-10	
39	谷1号墳	鞍手郡宮田町大字龍徳字谷	円・?	6/4	2	I	-	A1	B1 a	-	2A-	-	2	1	21	6-1	玄室屍床仕切
40	龍徳1号墳	鞍手郡宮田町大字龍徳字辻屋敷	円・?	6/4	2	I	b	A1	B1 a	-	A-	A-			21	7-8	
41	龍徳2号墳	鞍手郡宮田町大字龍徳字辻屋敷	円・?	6/4-7/1	2	I	b	A1	Cl a	-	2A2	2A2	2	1	22-26	7-9	
42	金丸天神山古墳	鞍手郡若宮町大字金丸字西の	円・18	6/4	2	I	b	A1	Cl a	b4	2B2	2B2	2	1	26	6-16	玄室屍床仕切
43	西屋敷1号墳	鞍手郡若宮町大字原田字西屋敷	円・?	?	2	I	b	-	B2 a	-	2B2	2B2	2	1			*
44	西屋敷2号墳	鞍手郡若宮町大字原田字西屋敷	円・?	?	2	I	b	C1	Cl a	-	2A2	2B2	2	1			*
45	西屋敷3号墳	鞍手郡若宮町大字原田字西屋敷	円・?	?	2	I	c	C1	C4 a	-	2A2		2	1			*
46	西屋敷5号墳	鞍手郡若宮町大字原田字西屋敷	円・?	?	2	I	c	B1	Cl a	-	2B2		2	1			*
47	西屋敷8号墳	鞍手郡若宮町大字原田字西屋敷	円・?	?	2	I	b	C3	Cl a	-	2B2	2B2	2	1			*
48	西屋敷11号墳	鞍手郡若宮町大字原田字西屋敷	円・?	?	2	I	b	B1	Cl a	-	A2	2B2	2	1			*
49	大浦西5号墳	鞍手郡若宮町大字原田字大浦	円・?	?	2												*
50	東向原1号墳	鞍手郡若宮町大字原田字東向原	円・?	?	2	I	b	B1	Cl a	b4	2B2	2B2	2	1			*
51	東向原2号墳	鞍手郡若宮町大字原田字東向原	円・?	?	2	I	b	A1	Cl a	b1	2A2	2B2	2	1			*
52	東向原3号墳	鞍手郡若宮町大字原田字東向原	円・?	?	2	I	b	A1	Cl a	b1	2B2	2B2	2	1			*
53	損ヶ熊1号墳	鞍手郡若宮町大字原田字損ヶ熊	円・14	?	2												*
54	損ヶ熊2号墳	鞍手郡若宮町大字原田字損ヶ熊	円・?	?	2	I	b	A1	Cl a	-	2B2	2B2	2	1			*
55	損ヶ熊3号墳	鞍手郡若宮町大字原田字損ヶ熊	円・?	?	2	I	-	A1	Cl a	-	2B2	2B2	2	1			*

地名表5. 筑前II(福岡県)

No.	古墳名	所在地	墳形・規模	築造年代	石室構成分類									文献	図版	備考
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨			
56	小原5号墳	鞍手郡若宮町大字山口字小原	円・7	7/1	2	I b	B2	C1b	-	2B2	2B2	2	1	15		
57	小原7号墳	鞍手郡若宮町大字山口字小原	円・?	6/3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	15		石材採取
58	里1号墳	鞍手郡若宮町大字山口字里	円・12		2									15		
59	丸山古墳	鞍手郡若宮町大字沼口字萩野	円・?		2											
60	汐井掛3号墳	鞍手郡若宮町大字沼口字汐井掛	円・13	6/3-4	2	I f	A1	C2a	-	2A-		2	1	20	6-14	
61	汐井掛22号墳	鞍手郡若宮町大字沼口字汐井掛	円・12	6/4-7/1	2	I b	A2	C1a	-	2B2	2B2	2	1	20	6-12	
62	平原1号墳	鞍手郡若宮町大字沼口字平原	円・10	7/1	2	I b	A1	A1a	-	2A2	2A2	2	1	27	7-4	
63	萩ノ浦1号墳	鞍手郡若宮町大字沼口字萩ノ浦	円・12	6/3	2	I b	A1	C1a	b-	2B2	2B2	2	1	28	7-7	
64	善徳寺古墳	鞍手郡若宮町大字水原字片熊	円・?	6/3												
65	竹原2号墳	鞍手郡若宮町大字竹原字切立	?													
66	竹原古墳	鞍手郡若宮町大字竹原字切立	円・18	6/3	2	I c	A1	C1a	b4	2A2		2	1	29・30	7-6	石棚/壁画
67	合屋古墳	鞍手郡小竹町大字御徳寺	円・?	7/1-2	2	I -	C1	C2a	-	2A2	2B2	2	1	31	7-12	
68	東田20号墳	遠賀郡岡垣町大字高倉字東田	円・10	6/4	2	I c	B3	C1a	a4	2A2	2A2	2	1		8-1	
69	池浦トボシ1号墳	宗像市大字池浦トボシ	円・11	6/4	2	I c	B1	C1a	b4	2B2		2	1			*
70	池浦トボシ2号墳	宗像市大字池浦トボシ	円・14	6/3	2	I -	A-	C1-	-	-	-	-	1			*
71	相原E1号墳	宗像市大字河東字相原	前円・62	6/3	2	I -	A3	C1a	b-	2B2	B2	2	1	32	8-5	石棚・屍床
72	相原2号墳	宗像市大字河東字相原	円・20	7/1	2	I c	A1	A1a	c3	2B2		2	1	32	8-4	
73	相原12号墳	宗像市大字河東字相原	円・12-14	6/4	2	I c	A1	C1a	b1	B2		2	1	32	8-2	
74	相原15号墳	宗像市大字河東字相原	円・11-14	7/2	2	I c	A1	B1b	-	2A2		2	1	32	8-6	
75	相原23号墳	宗像市大字河東字相原	円・13.3	6/4	2	I c	A1	C1a	b4	2B2		2	1	32	8-3	
76	久戸15号墳	宗像市大字河東字久戸	円・?	7/1-2	2	I b	A2	C1a	-	2A2	2B2	2	1	33	8-8	
77	久戸17号墳	宗像市大字河東字久戸	円・6.6	7/1-2	2	I c	A6	C1a	-	2A2		2	1	33	8-7	
78	久戸19号墳	宗像市大字河東字久戸	円・8	7/1-2	2	I a	B1	C1a	-	2A2		2	1	33	8-9	
79	須恵須賀浦1号墳	宗像市大字須恵字須賀浦	円・15	6/3	2	I c	A3	C1a	-	2B2		2	1			*
80	平等寺瀬戸1号墳	宗像市大字平等寺字向原	円・20	6/3	2	I c	A1	B1a	b4	B2		2	1			*石棚
81	平等寺瀬戸2号墳	宗像市大字平等寺字向原	円・16	6/3-4	2	I b	A1	B1a	b4	2B2	2B2	2	1			*
82	平等寺向原I-1号墳	宗像市大字平等寺字向原	円・13	6/3	2	I b	A1	C1a	b4	2B2	2B2	2	1	34	9-3	
83	平等寺原8号墳	宗像市大字平等寺字原	円・		2	I a	A1	C2a	-	2B2	2B2	2	1			*
84	平等寺原9号墳	宗像市大字平等寺字原	円・		2	I c	A1	A2a	b4	2B2	2B2	2	1			*
85	平等寺原10号墳	宗像市大字平等寺字原	円・		2	I c	A3	C2a	-	-		2	1			*
86	平等寺原17号墳	宗像市大字平等寺字原	円・		2	I c	A1	C1a	-	2B2		2	1			*
87	平等寺原19号墳	宗像市大字平等寺字原	円・		2	I b	A2	A1a	-	2B2	2B2	2	1			*
88	平等寺原20号墳	宗像市大字平等寺字原	円・		3	I b	A1	A2a	-	2B2	2B2	2	1			*
89	城ヶ谷21号墳	宗像市大字三郎丸字大田原	円・17	7/1	2	I b	B1	B1b	-	2B2	2B2	2	1	35	9-4	
90	久原Ⅲ-7号墳	宗像市大字久原	円・?	6/3-4	2	I b	A1	A1a	b4	2B2	2B2	2	1	36	9-2	
91	大穂町原1号墳1号	宗像市大穂字原	円・24	6/3-4	2	I b	A-	B1a	b1	2B2	2B2	2	1			*
92	大穂町原1号墳2号	宗像市大穂字原	円・24	6/3-4	2	I b	A3	C2a	-	2B2	2B2	2	1			*
93	大穂町原口2号墳	宗像市大穂字原	円・?	6/3-4	2	I -	A-	-	-	-	-	-	-			*石材採取
94	大穂町原口3号墳	宗像市大穂字原	円・?	6/3-4	2	I b	A1	C1a	-	2B2	2B2	2	1			*
95	大穂町原口4号墳	宗像市大字大穂字口	円・20	6/3	2	I b	A3	C1a	b1	2B2	2B2	2	1	37	9-1	
96	朝町山ノ口1号墳	宗像市大字朝町字山ノ口	円・8	6/4	2	I b	B1	B1a	-	2B2	2B2	2	1	38	8-13	
97	朝町山ノ口5号墳	宗像市大字朝町字山ノ口	円・10	6/3-4	2	I c	A1	B2a	-	2A2		2	1	38	8-12	
98	朝町山ノ口6号墳	宗像市大字朝町字山ノ口	円・8	6/3	2	-	A-	-	-	-	-	2	1	38		石材採取
99	朝町山ノ口9号墳	宗像市大字朝町字山ノ口	円・7	6/3	2	I c	A1	C2a	-	2A2		2	1	38	8-11	
100	朝町山ノ口15号墳	宗像市大字朝町字山ノ口	円・6	6/4	2	I c	A1	C1a	b-	2B2		2	1	38	8-10	
101	朝町百田A-8号墳	宗像市大字朝町字百田	円・8	6/4	2	I b	B1	C1a	-	2A2	2A2	2	1			*
102	朝町百田A-9号墳	宗像市大字朝町字百田	円・8	6/3-4	2	I b	A2	B1a	-	2A2	2A2	2	1			*
103	朝町百田B-1号墳	宗像市大字朝町字百田	円・12	6/3	2	I c	A1	C1a	-	2B2	2B2	2	1			*
104	朝町百田B-2号墳	宗像市大字朝町字百田	円・14	6/3	2	I c	A1	C1a	-	2A2	2B2	2	1			*
105	朝町百田B-3号墳	宗像市大字朝町字百田	円・		2	I c	A2	A1a	-	2B2	2B2	2	1			*
106	朝町百田B-4号墳	宗像市大字朝町字百田	円・11	6/4	2	I -	B1	C1a	-	2A2		2	1			*
107	朝町百田B-5号墳	宗像市大字朝町字百田	円・		2	I c	C1	B1a	-	2B2		2	1			*
108	朝町百田B-6号墳	宗像市大字朝町字百田	円・		2	I a	A-	-	-	2B2		2	1			*
109	朝町百田B-8号墳	宗像市大字朝町字百田	円・9	6/4	2	I -	B1	C1a	-	2B2	2B2	2	1			*
110	朝町百田B-9号墳	宗像市大字朝町字百田	円・?	7/?	2	I c	A1	C1a	-	2B2		2	1			*

地名表6. 筑前川(福岡県)

No.	古墳名	所在地	墳形・規模	築造年代	石室構成分類									文献	図版	備考	
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨				
111	名残高田1号墳	宗像市大字名残字高田	円・12	6/4	2	I c	A1	C3a	b2	2B2		2	1	39	9-6		
112	名残高田2号墳	宗像市大字名残字高田	円・11	6/4	2	I c	A1	C1a	-	2B2		2	1	39	9-7		
113	名残高田11号墳	宗像市大字名残字高田	円・?	6/4	2	I -	A1	-	-	-		2	1	39		石材採取	
114	名残高田14号墳	宗像市大字名残字高田	円・?	6/4	2	I c	A1	C1a	-	2A2		2	1	39	9-5		
115	名残高田16号墳	宗像市大字名残字高田	円・?	6/4	2	I -	A-	-	-	2A-		2	1	39		石材採取	
116	名残高田19号墳	宗像市大字名残字高田	円・?	6/4	2	I -	B1	-	-	2A2		2	1	39	9-8		
117	勝浦浜1号墳	宗像郡津屋崎町勝浦浜	円・14	7/1	2	II a	B4	B1b	-	2B-		2	1	40	9-13		
118	手光-北2号墳	宗像郡福岡町大字手光字浦ノ	円・19	6/3-4	2	I c	A6	C2a	a4	2B2		2	1	41	9-9		
119	手光-南2号墳	宗像郡福岡町大字福岡字西ノ	円・20	6/3	2	I b	A1	A1a	a3	2B2	B2	2	1	41	9-10	玄室尻床仕切り	
120	手光-南3号墳	宗像郡福岡町大字手光字大人	円・12	6/4	2	I c	A3	B1a	b5	2A2		2	1	41	9-12		
121	手光-南4号墳	宗像郡福岡町大字手光字大人	円・14	6/4	2	I b	A1	C1a	b1	2B2	2B2	2	1	41	9-11		
122	池田大古野C12号墳	宗像郡玄海町大字池田	円・20														
123	田野上林B4号墳	宗像郡玄海町大字田野	円・														
124	池田桜A-1号墳	宗像郡玄海町大字池田	円・20														
125	田島巖石E4号墳	宗像郡玄海町大字田島	円・														
126	牟田尻スィラA1号墳	宗像郡玄海町大字牟田尻	円・15														
127	牟田尻桜京A1号墳	宗像郡玄海町大字牟田尻	円・14	6/3	2	I c	A3	A1a	b-	2B3		2	1			*	
128	牟田尻桜京古墳	宗像郡玄海町大字牟田尻	前円・20	6/3	2	I b	A1	A1a	b3	2B2	2B2	2	1			* 石屋形・壁画	
129	新原奴山44号墳	宗像郡津屋崎町大字奴山	円・?	6/3	2	I b	A1	C1a	b1	2B2	2B2	2	1			*	
130	勝浦水押1号墳	宗像郡津屋崎町大字勝浦字水	円・14	6/4-7/1	2	I b	A1	C1a	b4	2B2	2B2	2	1			*	
131	勝浦乗越1号墳	宗像郡津屋崎町大字勝浦字乗	円・?	6/3	2	I b	A1	B1a	b1	2B2	2B2	2	1			*	
132	勝浦高原3号墳	宗像郡津屋崎町大字勝浦字高	円・12	6/3	3	I c	A3	C1a	b1	2B2	2B2	2	1			*	
133	勝浦高原5号墳	宗像郡津屋崎町大字勝浦字高	円・13		2	I -	A1	C1b	-	-	-	-	-			*	
134	勝浦高原7号墳	宗像郡津屋崎町大字勝浦字高	円・?		2	I -	A1	C2b								*	
135	内殿天田4号墳	宗像郡津屋崎町大字内殿字天	円・18		2	I b	A1	C1a	b4	2A2	2A2	2	1			*	
136	手光波切不動古墳	宗像郡福岡町大字手光	円・?	7/3	2	III c	A1	A1c	c5			4	0		9-14	壁面漆喰塗布	
137	観音浦KS3	糟屋郡宇美町大字井野字観音	円・16	6/4	2	I c	A1	A1a	a1	2B2	2B2	2	1	42	10-6		
138	観音浦KS5	糟屋郡宇美町大字井野字観音	円・?	6/3-4	2	I d	A-	C4c	-	2A2	2B2	2	1	42	10-4		
139	観音浦KS6	糟屋郡宇美町大字井野字観音	円・8	6/4-7/1	3	I c	C	C1	-	2A2		2	1	42	10-9	前室変異形	
140	観音浦KS12	糟屋郡宇美町大字井野字観音	円・12	6/4	2	I c	A1	C1a	-	2A-	2A-	2	1	42	10-8		
141	観音浦KS16	糟屋郡宇美町大字井野字観音	円・7	6/4-7/1	3	I c	C1	A1a	-	2A2	2A2	2	1	42	10-10		
142	観音浦KS17	糟屋郡宇美町大字井野字観音	円・16	6/3-4	2	I c	A1	C2a	a3	2A2		2	1	42	10-5		
143	観音浦KS27	糟屋郡宇美町大字井野字観音	円・7	7/1	2	I b	C1	C1a	-	2A2	2A2	2	1	42	10-7		
144	湯湧2号墳	糟屋郡宇美町大字炭焼字湯湧	円・22	6/3-4	2	I c	A2	B1a	a1	2A2	2A2	2	1	43	10-2		
145	花ノ木1号墳	糟屋郡宇美町大字炭焼字花ノ	円・?													44	
146	乙植木4号墳	糟屋郡須恵町大字植木字山城	円・14	6/3-4	2	I c	A1	B2a	-	2A1		2	1	45	10-3		
147	尾黒9号墳	糟屋郡須恵町大字植木字尾黒	円・?													44	
148	長者の隈古墳	糟屋郡篠栗町大字若杉字今里	?													44	
149	原口1号墳	糟屋郡古賀町大字新原字原口	?	6/3	2	I c	A1	B1a	-	2B2		2	1	46	10-1		
150	神田1号墳	糟屋郡久山町大字猪野神田	?											44-47			
151	今里不動古墳	福岡市博多区	円・約30	7/1	2	I c	B2	C1a	a1	2A2		2	1	48	10-11		
152	東光寺剣塚古墳	福岡市博多区竹下	前円・約75	6/2-3	2	I b	A1	C1a	a1	A2	A2	2	1	49	11-1	石屋形・線刻	
153	堤ヶ浦5号墳	福岡市博多区大字金隈	円・13.5	6/4	2	I b	B1	C-	-	-	-	-	-	50		石材採取	
154	大牟田16号墳	福岡市南区柏原字大牟田	円・?											51			
155	大牟田28号墳	福岡市南区柏原字大牟田	円・?											51			
156	大牟田30号墳	福岡市南区柏原字大牟田	円・?											51			
157	神松寺御陵古墳	福岡市城南区片江	前円・20	6/2-3	2	I b	A2	B1a	-	2A2	2A-	1	2	1	52	10-14	
158	倉瀬戸2号墳	福岡市城南区西片江	円・?	6/4	2	I c	A1	C1a	-	2A2		2	1	53	11-2		
159	倉瀬戸9号墳	福岡市城南区西片江	円・17.6	6/3	2	I e	A1	B3a	a3	2A2		2	1	53	11-3		
160	鳥越E2号墳	福岡市城南区片江	円・15	?	2	I -	A3	C2a	b-	2A2	2A2	2	1	55	12-4		
161	鳥越D1号墳	福岡市城南区片江	円・9-11	?	2	I -	C1	C5b	-	2B2	-	2	1	54	12-6		
162	鳥越D5号墳	福岡市城南区片江	円・10-11	?	2	I -	A2	C1b	b-	2A2		2	1	54	12-5		
163	影塚2号墳	福岡市城南区大字野芥	円・16	6/3-4	2	I c	A1	C1a	b1	2A2		2	1	56	12-1		
164	大谷7号墳	福岡市城南区梅林	円・約8	7/1-2	2	I c	B1	C1a	-	2A2		2	1	57	12-2		
165	高崎3号墳	福岡市西区拾六町	円・	7/1	2	I e	B1	A3a	-	2B-	2B-	2	1	58	12-8		

地名表7. 筑前IV(福岡県)

No.	古墳名	所在地	墳形・規模	築造年代	石室構成分類									文献	図版	備考
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨			
166	広石Ⅷ-1号墳	福岡市西区大字野方	円・14-16	6/3	2	I-	A1	B1a	-	2A2	2A2	2	1	59	12-3	
167	羽根戸N1号墳	福岡市西区大字羽根戸	円・13-16	6/3-4	3	I a	A1	C1a	a1	2A2	2A2	2	1	60	11-6	前室は小形
168	羽根戸N2号墳	福岡市西区大字羽根戸	円・11	6/4	2	I c	A1	A1a	a1	2A2		2	1	60	11-7	
169	羽根戸N3号墳	福岡市西区大字羽根戸	円・15-21	7/1	2	I e	B1	C4b	a1	2A2	2A2	2	1	60	11-10	前室変異形
170	羽根戸N8号墳	福岡市西区大字羽根戸	円・15-20	6/3-4	2	I a	A1	B1a	a1	2A2	2A2	2	1	60	11-5	
171	羽根戸N27号墳	福岡市西区大字羽根戸	円・6.5	6/4-7/1	2	I b	B1	C1a	a1	2A2	2A2	2	1	60	11-9	
172	羽根戸N28号墳	福岡市西区大字羽根戸	円・8	7/1	2	I b	B1	C1a	a1	2A2	2A2	2	1	60	11-8	
173	羽根戸Q5号墳	福岡市西区大字羽根戸	円・10-12	7/2	2	I d	A1	c4a	-	2A2	2A2	2	1	61	11-11	
174	金武-吉武D11号墳	福岡市西区大字吉武	円・14	6/3-4										62		
175	金武-吉武J3号墳	福岡市西区大字吉武	円・11.5	6/4										62		
176	金武-吉武K9号墳	福岡市西区大字吉武	円・12-14	6/4	2	I b	A2	C1a	a1	2A2	B2	2	1	62	11-12	
177	金武-吉武M1号墳	福岡市西区大字吉武	円・11.5	6/4										62		
178	金武-吉武O2号墳	福岡市西区大字吉武	円・10	6/3										62		
179	金武-吉武O3号墳	福岡市西区大字吉武	円・11.5	6/4										62		
180	金武-乙石D1号墳	福岡市西区大字金武	円・9	6/4										62		
181	金武-乙石H2号墳	福岡市西区大字金武	円・30	7/1	2	I d	A4	D1a	a1	2B1	2B1	3	0	63	11-4	羨道に立柱石
182	徳永H18号墳	福岡市西区大字徳永	円・10	6/4	2	I c	A1	C2a	-	2A2		2	1	64	12-7	
183	観音山-中原I-1号墳	筑紫郡那珂川町大字中原	前円・23.5	6/3	2	I e	A1	C4a	-	2A1	2B2	2	1	65	12-12	前室変異形
184	観音山-中原Ⅲ-11号墳	筑紫郡那珂川町大字中原	円・8.2-11	7/1	2	I b	A1	C1a	-	2B-	2B-	2	1	66		
185	観音山-中原Ⅲ-12号墳	筑紫郡那珂川町大字中原	円・13	7/2	2	I c	B1	C1a	-	2A2		2	1	67	12-13	
186	観音山-中原Ⅳ-21号墳	筑紫郡那珂川町大字荒巻	円・9.5-10	6/4	2	I c	A	C1	-	2A-		2	1	67		
187	観音山-平石I-2号墳	筑紫郡那珂川町大字松木	円・9-10	6/4-7/1	2	I b	B1	C1a	-	2A2	2A2	2	1	68	12-10	
188	観音山-平石I-3号墳	筑紫郡那珂川町大字松木	円・10	7/1	2	I c	A1	A1	a1	2A2		2	1	68	12-11	
189	平蔵2号墳	筑紫郡那珂川町大字安徳	円・?	7/1	2	I b	A1	C1a	-	2A2	2A2	2	1	69	12-9	
190	牛頸中通7号墳	大野城市大字牛頸字中通	?・?	7/2	2	I b	B1	C1a	-	2A2	2A2	2	1	70	13-4	
191	牛頸中通10号墳	大野城市大字牛頸字中通	?・?	7/1	2	I c	C1	C1a	a1	2A2	2A2	2	1	70	13-2	玄室変形
192	牛頸中通13号墳	大野城市大字牛頸字中通	?・?	7/2	2	I b	B1	C3a	a1	2A2		2	1	70	13-3	
193	牛頸後田2号墳	大野城市大字牛頸字後田	円・12.5	7/1	2	I b	A1	C1a	-	2A2	2A2	2	1	71	13-5	
194	牛頸後田3号墳	大野城市大字牛頸字後田	円・14	6/4	2	I b	B1	C1a	-	2A2	2A2	2	1	71	13-8	
195	牛頸後田4号墳	大野城市大字牛頸字後田	円・9.9	6/4	2	I b	A1	C1a	a1	2A2	2A2	2	1	71	13-7	
196	牛頸後田5号墳	大野城市大字牛頸字後田	円・12	6/4	2	I c	C1	C1a	-	2A2		2	1	71	13-8	
197	牛頸後田10号墳	大野城市大字牛頸字後田	円・13	7/1	2	I c	A1	C1b	-	2A2		2	1	71	13-6	
198	王城山A4号墳	大野城市大字乙金	円・16	6/4										72		
199	乙金北1号墳	大野城市大字乙金	円・16	7/1	2	I b	A1	B1a	a1	2A2	2A2	2	1	73	13-1	
200	陣ノ尾1号墳	太宰府市大字国分	円・12	6/4	2	I b	A1	B1a	-	2A2	2A2	2	1	74	13-10	
201	埴安神社古墳	筑紫野市大字杉塚字前田	円・15													
202	唐人塚4号墳	筑紫野市大字杉塚	円・推20	6/3-4	2	I a	A1	-	-	-	-	-	-	75		石材抜取り
203	八限1号墳	筑紫野市大字武蔵字八限	円・15	6/4	2	I b	A3	A2a	b5	2B2	2B2	2	1	76	14-1	
204	欠															
205	八限5号墳	筑紫野市大字武蔵字八限	?	6/4-7/1	2	I b	B1	C2c	-	2A2	2A2	2	1	76	14-2	
206	八限6号墳	筑紫野市大字武蔵字八限	?	6/4	2	I b	B1	C3b	-	2A2	2A2	2	1	76	14-4	
207	八限8号墳	筑紫野市大字武蔵字八限	円・8.8	6/4-7/1	2	I b	B1	C3a	-	2A2	2A2	2	1	76	14-3	
208	杉の谷1号墳	筑紫野市大字阿志岐字杉の谷	?	6/4-7/1	2	I b	C1a	C1a	-	2A-	-	2	1	77	13-12	
209	杉の谷3号墳	筑紫野市大字阿志岐字杉の谷	円・9.8	6/4	2	I c	A3	C1a	a1	2A1		2	1	77	13-11	
210	殿塚塚1号墳	筑紫野市大字山家6区	円・約20		2											壁画
211	五郎山古墳	筑紫野市大字原田字五郎山	円・約30	6/3	2	I b	A1	C1a	b2	2A2	2A2	2	1	78	13-13	壁画・前門▲a
212	原田第3地点1号墳	筑紫野市大字原田字合原	円・?	6/4	2											
213	原田第17地点18号墳	筑紫野市大字原田字不別当	?		2											
214	原田第17地点19号墳	筑紫野市大字原田字不別当	?	6/4	2											
215	原田第17地点21号墳	筑紫野市大字原田字不別当	?	6/4	2											
216	砥上観音塚古墳	朝倉郡夜須町大字砥上	円・13.5	7/?	3	I b	C1	B2a	d4	2A1	2A1	2	1	79	14-8	前・中門▲b・壁画
217	仙道古墳	朝倉郡三輪町大字久光	円・45	6/3-4	2	-	A1	-	-	2A-	-	2	1			壁画
218	柿原G-1号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・15-18	6/4	2	I c	C5	C5a	-	2B2		1	0	80	15-2	
219	柿原H-1号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・5-7	7/1-2	2	I c	C6	C--	-	2B2		1	0	80		
220	柿原H-3号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・17	6/4	2	I c	A5	C1a	-	2B2		1	0	80	15-3	前室破壊

地名表8. 筑前V(福岡県)

No.	古墳名	所在地	墳形・規模	築造年代	石室構成分類									文献	図版	備考	
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨				
221	柿原S-1号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	?	6/4?	2	I-	A5	-	-	2B2		1	0	80			
222	柿原I-2号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・12-16	6/4-7/1	2	I	c	B7	C1a	-	1C3		1	0	81	15-4	
223	柿原I-3号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・12-16	6/4-7/1	2	-	C-	-	-	-	-	1	0	81		石材採取	
224	柿原I-4号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・6-8	7/1-2	2	I	c	B5	C5c	-	2B2		1	0	81	15-5	
225	柿原I-6号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・9-11	7/1	2	I	b	B5	C5c	-	-	2A2	1	0	81	15-6	
226	柿原I-13号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・7.1	7/2-3	2	I	c	B6	C5a	-	2B2		1	0	81		
227	柿原I-15号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・9	7/3	2	-	C5	-	-	-	-	1	0	81		石材採取	
228	柿原E-F-3号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・6.2	7/2-3	2	I-	C-	C-a	-	B2		1	0	82			
229	柿原E-F-4号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・6-6.5	7/2-3	2	I	f	C6	C5a	-	2B2	2A2	1	0	82	15-8	
230	柿原E-F-5号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・8	7/2	2	I	f	C6	C5a	-	2B2	2A2	1	0	82	15-9	
231	柿原E-F-9号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・8-8.5	7/2-3	2	I	f	C5	C1a	-	2B2	2A2	1	0	82	15-7	
232	柿原E-F-10号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・10	7/2-3	2	I	c	B5	C5a	-	2B2	2A2	1	0	82	15-10	
233	柿原E-F-15号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・10	7/2	2	I	b	C5	C1	-	2B2	2B2	1	0	82		
234	柿原E-F-18号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・	7/?	2	-	-	-	-	-	-	-			82		石材採取
235	柿原D-1号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	方・12	7/3	2	I	b	A1	C1a	-	2B2	2B2	1	1	83	15-19	
236	柿原D-3号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・7	7/4	2	I	d	C1	C4a	-	2B2	2B2	1	1	83	15-20	
237	柿原D-8号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・6-7	7/3	2	I	d	B5	C4a	-	2B2	2B2	1	0	83	15-18	
238	柿原D-14号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・8	7/4	2	I	c	C6	C1a	-	2B2		1	0	83	15-14	
239	柿原D-15号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・8	7/2-3	2	I	c	C6	C1a	-	2B2		1	0	83	15-12	
240	柿原D-16号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・5.5	7/2-3	2	I	b	B6	C1a	-	2B2	2B2	1	0	83	15-11	
241	柿原D-18号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・6-7	7/3	2	I	c	B1	C5a	-	2B2		1	1	83	15-21	
242	柿原D-20号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・5	7/2-3	2	I	b	A6	C1a	-	2A2	2A2	1	0	83	15-13	
243	柿原D-22号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・9	7/3	2	I	d	B6	C4a	-	2B2	2B2	1	0	83	15-17	
244	柿原D-24号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・8	7/3	2	I-	B6	C1a	-	2B2		1		83	15-16	前室前面破壊	
245	柿原D-26号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・7	7/2/3	2	I-	C7	-	-	B22		1	0	83		前室崩壊	
246	柿原D-28号墳	甘木市大字柿原・大谷・板屋	円・5.5	7/2-3	2	I	c	C6	C1a	-	2B2		1	0	83	15-15	
247	鬼の枕古墳	甘木市大字菩提寺	前円・56	6/3	2	I	b	A1	-	-	-	2	1	84		石材採取	
248	甘水岩井園1号墳	甘木市大字甘水岩井園	円・?	7/1	2	I	c	C1	C1a	b1	2A2		2	1	89	15-1	旧「甘水」・壁画
249	狐塚古墳	朝倉郡朝倉町大字入地	?	7/1	2	I	c	C7	C5c	-	2A2	2B2	2	0	85	14-9	線刻
250	湯の隈古墳	朝倉郡朝倉町大字鳥集院	円・17	6/4	2	I	b	A1	C1b	b2	2A2	2B2	2	1	86	14-7	旧「宮地岳」・壁画
251	須川千代田古墳	朝倉郡朝倉町大字須川	?	7/1-2	2	I-	C5	C6a	-	2B2		2	0	87	14-10		
252	山田1号墳	朝倉郡朝倉町大字山田	円・9.5-10	6/4	2	I	c	B7	C5a	-	2B2		1	0	88	14-12	
253	山田2号墳	朝倉郡朝倉町大字山田	円・11-12	6/4	2	I	b	B7	C1a	-	2B2	2B2	1	0	88	14-11	
254	栗田谷1号墳	朝倉郡三輪町大字栗田	円・?	6/4	2	I	b	A1	C1a	b1	2B2	2B2	2	1	90	14-6	
255	栗田谷2号墳	朝倉郡三輪町大字栗田	円・?	6/4	2	I-	A6	C1a	-	2A2		2	1	90	14-5		
256	栗田谷6号墳	朝倉郡三輪町大字栗田	円・?	6/4?	2	-	A1	-	-	B2		2	1	90		前室未掘	

【文献】

- 1) 高島忠平・藤田等1973『宮脇前方後円墳』『嘉穂地方史』先史編(嘉穂地方史編纂委員会)
- 2) 樋口嘉彦編1995『川島古墳群』(飯塚市教育委員会)
- 3) 嘉穂東高等学校郷土部1971『川島3号墳について』(嘉穂東高等学校郷土部)
- 4) 嘉穂東高等学校郷土部1971『川島4号墳について』(嘉穂東高等学校郷土部)
- 5) 嶋田光一編1991『川島古墳』(飯塚市教育委員会)
- 6) 嘉穂東高等学校郷土部編1975『羅漢山』(嘉穂東高等学校郷土部)
- 7) 折尾学・藤田等1973『伊川古墳群』『嘉穂地方史』先史編(嘉穂地方史編纂委員会)
- 8) 新原正典・上野智裕1989『仁保・多田古墳群』(庄内町教育委員会)
- 9) 高島忠平1969『津原古墳群』『穂波町誌』(穂波町)
- 10) 井上裕弘・川述昭人1981『新行坊古墳』(嘉穂町教育委員会)
- 11) 福島日出海編1990『嘉穂地区遺跡群』(嘉穂町教育委員会)
- 12) 金川明敏ほか1974『古墳時代』『鞍手町誌』上巻(鞍手町)
- 13) 池ノ上富恵編1995『古門松ヶ元古墳群』(鞍手町教育委員会)
- 14) 川述昭人編1983『長目崎古墳群』(鞍手町教育委員会)
- 15) 児玉真一編1977『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』X I (福岡県教育委員会)
- 16) 渡辺正気ほか1985『新延大塚古墳』(鞍手町教育委員会)
- 17) 副島邦弘編1977『高木遺跡の調査』『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』X III (福岡県教育委員会)

- 18) 副島邦弘編1986『安城遺跡群』(鞍手町教育委員会)
- 19) 松岡史編1963『銀冠塚』(福岡県教育委員会)
- 20) 上野精志編1978「汐井掛古墳群の調査」『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』XXII(福岡県教育委員会)
- 21) 上野精志1978「古墳時代」『宮田町誌』上巻(宮田町)
- 22) 牛嶋英俊1987『疑似石棚をもつ横穴式石室』『考古学と地域文化』(同志社大学考古学シリーズ3)
- 23) 井上裕弘編1983『松ヶ元古墳群』(宮田町教育委員会)
- 24) 副島邦弘編1984『中有木中ノ浦古墳群』(宮田町教育委員会)
- 25) 児玉真一編1979『若宮・宮田工業団地関係埋蔵文化財調査報告書』第1集(福岡県教育委員会)
- 26) 浜田信也編1975『金丸古墳』(若宮町教育委員会)
- 27) 児玉真一編1980『若宮・宮田工業団地関係埋蔵文化財調査報告書』第3集(福岡県教育委員会)
- 28) 舌間悟編1991『萩ノ浦古墳群』(若宮町教育委員会)
- 29) 森貞次郎ほか1982『竹原古墳保存修理事業概要報告』(若宮町教育委員会)
- 30) 森貞次郎1957『福岡県鞍手郡若宮町竹原古墳の壁画』『美術研究』194号(東京国立美術研究所)
- 31) 小田富士雄ほか1985「合屋古墳」『小竹町史』(小竹町)
- 32) 酒井仁夫編1979『相原古墳群』(宗像市教育委員会)
- 33) 酒井仁夫編1980『久戸古墳群II』(宗像市教育委員会)
- 34) 安倍裕久編1994『平等寺向原I』(宗像市教育委員会)
- 35) 波多野亮三ほか1977『城ヶ谷古墳群』(住友不動産株式会社・クボタハウス株式会社)
- 36) 清水比呂之編1988『久原遺跡』(宗像市教育委員会)
- 37) 原俊一編1983『大穂町町口I』(宗像市教育委員会)
- 38) 原俊一編1983『朝町山ノ口I』(宗像市教育委員会)
- 39) 原俊一編『名残II』(宗像市教育委員会)
- 40) 石山勳編1977『新原・奴山古墳群』(福岡県教育委員会)
- 41) 伊崎俊秋編1981『手光古墳群I』(福岡町教育委員会)
- 42) 平ノ内幸治編1981『宇美観音浦』下巻(宇美町教育委員会)
- 43) 平ノ内幸治編1984『湯湧古墳群』(宇美町教育委員会)
- 44) 福岡県教育委員会編1979『福岡県遺跡等分布地図(糟屋郡編)』
- 45) 石山勳編1974『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』X(福岡県教育委員会)
- 46) 石山勳編1974『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』IV(福岡県教育委員会)
- 47) 平ノ内幸治1996「古墳時代」『久山町史』(久山町)
- 48) 福岡市教育委員会・九州大学考古学研究室1989「福岡市・今里不動古墳の調査」『九州考古学』63(九州考古学会)
- 49) 山口讓二・吉留秀敏編1991『東光寺剣塚古墳』(福岡市教育委員会)
- 50) 山口讓二・吉留秀敏編1987『堤ヶ浦古墳群』(福岡市教育委員会)
- 51) 松本健郎1970「複室墳の諸問題」『熊本史学』37号
- 52) 山崎純雄編1978『神松寺遺跡』(福岡市教育委員会)
- 53) 小田富士雄編1973『倉瀬戸古墳群』(倉瀬戸古墳群調査団)
- 54) 福岡大学歴史研究会編1979『鳥越古墳群一現状調査報告書一』(福岡大学歴史研究会)
- 55) 福岡大学歴史研究会編1985『早苗田・鳥越古墳群現状調査報告書』(福岡大学歴史研究会)
- 56) 藤田和裕編1972『影塚第1号墳発掘調査報告』(福岡市教育委員会)
- 57) 緒方勉編1972『大谷古墳群』(段谷産業株式会社)
- 58) 浜田信也編1970『今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告』第1集(福岡県教育委員会)
- 59) 田崎博之編1989『広石遺跡群一広石古墳群Ⅷ群の・広石遺跡E地点一』(福岡市教育委員会)
- 60) 横山邦継編1988『羽根戸遺跡』(福岡市教育委員会)
- 61) 瀧本正志編1993『羽根戸古墳群2』(福岡市教育委員会)
- 62) 柳沢一男編1981『重要遺跡確認調査報告書』I(福岡市教育委員会)
- 63) 塩屋勝利編1980『四箇周辺遺跡調査報告書(3)』(福岡市教育委員会)
- 64) 塩屋勝利・田中寿夫編1980『徳永アラタ古墳群』(福岡市教育委員会)
- 65) 沢田康夫編1981『観音山古墳群』(那珂川町教育委員会)
- 66) 佐藤昭則編1992『観音山古墳群IV』(那珂川町教育委員会)
- 67) 佐藤昭則編1986『観音山古墳群II』(那珂川町教育委員会)
- 68) 柳田康雄編1978『山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告』第5集(福岡県教育委員会)
- 69) 沢田康夫編1980『平蔵遺跡』(那珂川町教育委員会)
- 70) 松岡史・副島邦弘編1980『牛頸中通遺跡群』(大野城市教育委員会)
- 71) 舟山良一編1992『牛頸後田・小田浦古墳群』(大野城市教育委員会)
- 72) 酒井仁夫編1977『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』IX(福岡県教育委員会)
- 73) 横大路俊明編1984『乙金古墳群一北支群』(大野城市教育委員会)
- 74) 山本信夫編1982『陣ノ尾遺跡2次調査』『太宰府条坊跡』(太宰府市教育委員会)
- 75) 川述昭人ほか1977「唐人塚遺跡の調査」『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』XVIII(福岡県教育委員会)
- 76) 酒井仁夫ほか1976「八隈古墳群の調査」『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』VII(福岡県教育委員会)
- 77) 山野洋一・奥村俊久編1979『杉の谷古墳群』(筑紫野市教育委員会)
- 78) 森貞次郎1964「福岡県五郎山古墳」『装飾古墳』(平凡社)
- 79) 朝倉高等学校史学部編1969「砥上観音塚古墳」『埋もれていた朝倉文化』(福岡県立朝倉高等学校)

- 80) 石山勳・新原正典編1984『九州横断自動車道関係間諷文調査報告(4)』(福岡県教育委員会)
- 81) 中間研二編1986『九州横断自動車道関係間諷文調査報告(6)』(福岡県教育委員会)
- 82) 小池史哲編1987『九州横断自動車道関係間諷文調査報告(12)』(福岡県教育委員会)
- 83) 小池史哲編1990『九州横断自動車道関係間諷文調査報告(19)』(福岡県教育委員会)
- 84) 小田和利・内田俊和1987『鬼の枕古墳』(甘木市教育委員会)
- 85) 渡辺正気1964『狐塚古墳』(福岡県教育委員会)
- 86) 森貞次郎1964『観音塚古墳』『装飾古墳』(平凡社)
- 87) 朝倉高等学校史学部編1969『須川千代田古墳』『埋もれていた朝倉文化』(福岡県立朝倉高等学校)
- 88) 小池史哲編1992『九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告(23)』(福岡県教育委員会)
- 89) 朝倉高等学校史学部編1969『甘水古墳』『埋もれていた朝倉文化』(福岡県立朝倉高等学校)
- 90) 朝倉高等学校史学部編1969『栗田谷古墳群』『埋もれていた朝倉文化』(福岡県立朝倉高等学校)

地名表10. 筑後II(福岡県)

No.	古墳名	所在地	墳形・規模	築造年代	石室構成分類									文献	図版	備考	
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨				
56	平原38号墳	浮羽郡田主丸町森部	円・?		2												
57	平原39号墳	浮羽郡田主丸町森部	円・?		2												
58	平原43号墳	浮羽郡田主丸町森部	円・?		2												
59	平原47号墳	浮羽郡田主丸町森部	円・?		2												
60	平原48号墳	浮羽郡田主丸町森部	円・?		2												
61	平原50号墳	浮羽郡田主丸町森部	円・?		2												
62	平原52号墳	浮羽郡田主丸町森部	円・?		2												
63	平原61号墳	浮羽郡田主丸町森部	円・?		2												
64	平原62号墳	浮羽郡田主丸町森部	円・?		2												
65	平原63号墳	浮羽郡田主丸町森部	円・?		2												
66	平原64号墳	浮羽郡田主丸町森部	円・?		2												
67	平原65号墳	浮羽郡田主丸町森部	円・?		2												
68	平原66号墳	浮羽郡田主丸町森部	円・?		2												
69	森部6号墳	浮羽郡田主丸町森部	円・?		2												
70	森部7号墳	浮羽郡田主丸町森部	円・?		2												
71	内畑古墳	久留米市草野町紅桃林	円・25	6/3-4	2	I b	A6	C5a	b-	2B2	2B2	2	0	17	18-7	3室風	
72	大屋敷2号墳	久留米市草野町紅桃林	円・?		2												
73	塚原1号墳	久留米市草野町塚原	円・?		2												
74	前畑古墳	久留米市草野町前畑	円・20	6/4-7/1	2	I b	A1	C1a	b2	2A1	2A2	2	0	18-19	18-5	壁画	
75	薬師下北古墳	久留米市草野町薬師下	円・?	6/4	2	I b	A1	C1a	b2	2A1	2A1	2	1	12-19	18-9	壁画	
76	薬師北南古墳	久留米市草野町薬師下	円・?	6/4	2	I b	A1	C1a	b2	2A1	2A2	2	1	12-19	18-8	壁画	
77	下馬場古墳	久留米市草野町吉木字下馬場	円・30	6/3-4	2	I b	A1	B1b	b-	2A1	2A1	2	1	12-19	18-6	壁画	
78	吉木2号墳	久留米市草野町吉木字下馬場	円・?		2												
79	吉木3号墳	久留米市草野町吉木字上諸富	円・?		2												
80	吉木4号墳	久留米市草野町吉木字上諸富	円・?		2												
81	吉木6号墳	久留米市草野町吉木字上諸富	円・?		2												
82	合原1号墳	久留米市草野町吉木字合原	円・?		2												
83	合原2号墳	久留米市草野町吉木字合原	円・?		2												
84	西屋敷1号墳	久留米市山本町豊田字西屋敷	円・?	6/4-7/1	2	I-	A-	C-a	-	-	-	2	-	20	19-1		
85	西屋敷2号墳	久留米市山本町豊田字西屋敷	円・?		2												
86	大谷3号墳	久留米市高良内町字大谷	円・?		2												
87	西行6号墳	久留米市高良内町字西行	円・10	?	2	I c	B5	C-a	-	-	-	1	0	21			
88	西行10号墳	久留米市高良内町字西行	円・10	?	2	I b	B1	-	-	-	-	1	0	21			
89	西行14号墳	久留米市高良内町字西行	円・13	?	2	I b	B6	C5a	-	-	-	1	0	21	19-4		
90	西行16号墳	久留米市高良内町字西行	円・?	?	2	I b	A6	C1a	-	-	2A2	1	0	21	19-3		
91	西行19号墳	久留米市高良内町字西行	円・11	?	2	-	-	-	-	-	-			21			
92	中隈山3号墳	久留米市国分町字中隈山	円・?	?	2	I b	A-	C5a	-	-	B2	1	0	22			
93	極楽寺1号墳	久留米市上津町字本山	円・20	6/3	2	I b	B5	C-a	-	2A-	-	1	0	23			
94	極楽寺3号墳	久留米市上津町字本山	円・18	6/4-7/1	2	I b	B5	C5a	-	2A-	-	1	0	23	19-2		
95	浦山②号墳	久留米市上津町字池田	円・?		2												
96	馬場2号墳	八女郡広川町大字水原字中馬場	円・7		2												
97	馬場3号墳	八女郡広川町大字水原字中馬場	円・9		2												
98	馬場4号墳	八女郡広川町大字水原字中馬場	円・12		2												
99	内田1号墳	八女郡広川町大字水原字泉元	円・22		2												
100	長延4号墳	八女郡広川町大字長延	円・16		2												
101	山の前1号墳	八女郡広川町大字広川	円・24	6/3	2	I-	A6a	C-a	-	2A-	-	1	0	24			前室石材抜取り
102	鈴ヶ山1号墳	八女郡広川町大字新代	円・12	6/3	2	I b	A6	C5a	-	2A2	2A2	1	0	24	20-4		
103	鈴ヶ山2号墳	八女郡広川町大字新代	円・13-17	6/3-4	2	I b	A5	A5a	-	2A-	2A-	1	0	24			
104	大塚1号墳1号石室	八女郡広川町大字大塚	円・30.4	6/3-4	2	I b	A6	B1a	b-	2A2	2A2	1	0	25	19-5		前門▲a
105	大塚1号墳2号石室	八女郡広川町大字大塚	円・30.4	6/3-4	2	I a	A6	B1a	-	1A1	1A-	1	0	25	19-6		門柱に複数板石
106	東山3号墳	八女郡広川町大字広川字東山	円・16	6/4	2	I-	A-	-	-	-	-	1	0	26	20-3		玄室屍床仕切り
107	東山4号墳	八女郡広川町大字広川字東山	円・12-14	6/4-7/1	2	I-	A6	-	-	-	-	1	0	26			
108	植松1号墳	八女郡広川町大字長延	円・?		2	I b	B5	C5a	-	1A1	1A-	1	0	27	19-9		
109	植松2号墳	八女郡広川町大字長延	円・?		2	I b	B5	C5a	-	1A1	1A1	1	0	27	19-7		
110	植松3号墳	八女郡広川町大字長延	円・?		2	I b	B5	C5a	-	1A-	1A-	1	0	27	19-8		

地名表12. 筑後IV(福岡県)

No.	古墳名	所在地	墳形・規模	築造年代	石室構成分類									文献	図版	備考	
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨				
166	曲松2号墳	八女郡立花町大字北山字曲松	円・12		2												
167	上ノ山1号墳(大塚)	八女郡立花町大字北山字中通	円・28	6/4	2	I b	A1	B1a	b1	2A1	2A1	2	1	38	21-11		
168	浦田古墳	八女郡立花町大字谷川字浦田	円・12.5		2												
169	小路古墳	八女郡立花町大字北山字小路	円・12		2												
170	谷中1号墳	八女郡立花町大字北山字谷中	円・14		2												
171	笹が平古墳	八女郡立花町大字北山字笹が平	円・?		2												
172	東濃施古墳	八女郡立花町大字下楠田字濃	円・?		2	I b	A1	C1b	-	1A-	1A-	-	-		21-5		
173	宮ヶ浦1号墳	三池郡高田町大字高田字楠田	円・?		2	I a	A1	B2b	-	1A-	1A-	-	-		21-6		
174	宮ヶ浦2号墳	三池郡高田町大字高田字楠田	円・?		2	I a	B1	-	-	1A-	1A-	-	-		21-9		
175	宮ヶ浦3号墳	三池郡高田町大字高田字楠田	円・?		2	I a	B1	B1a	-	1A-	1A-	-	-		21-7		
176	宮ヶ浦4号墳	三池郡高田町大字高田字楠田	円・?		2	I a	B2	A1a	-	1A-	1A-	-	-		21-8		
177	宮ヶ浦5号墳	三池郡高田町大字高田字楠田	円・?		2	-	C1	-	-	1A-	1A-	-	-		21-10		
178	隈古墳	大牟田市大字宮崎字高良山	円・?		2												
179	岬ヶ原21号墳	大牟田市大字永倉字福砂	円・8.5	7/1	2	I b	B1	B3a	b-	2A1	2A1	2	1	39	21-14		
180	岬ヶ原33号墳	大牟田市大字岬字山下	円・?	6/3	2										39		
181	岬ヶ原56号墳	大牟田市大字倉永字風平寺	円・?		2										39		
182	岬ヶ原57号墳	大牟田市大字倉永字福砂	円・?		2										39		
183	釈迦堂1号墳	大牟田市大字上内字長浦	円・?	6/4	2	I a	B-	A1-	-	2A2	2A2	2	1	40	21-13		
184	釈迦堂5号墳	大牟田市大字上内字長浦	円・?		2										40		
185	釈迦堂6号墳	大牟田市大字上内字長浦	円・?		2										40		
186	釈迦堂12号墳	大牟田市大字上内字長浦	円・?		2										40		
187	釈迦堂17号墳	大牟田市大字上内字茂登山	円・?		2										40		
188	茂登山7号墳	大牟田市大字上内字茂登山	円・?		2												
189	甘木山5号墳	大牟田市大字甘木字甘木山	円・?		2												
190	甘木山7号墳	大牟田市大字甘木字甘木山	円・?		2												
191	甘木山9号墳	大牟田市大字甘木字甘木山	円・?		2												
192	望谷古墳	大牟田市大字甘木字望谷	円・?	6/4	2	I-	-	C1a	-	2A-	2A-	2	1	41	21-12		
193	萩ノ尾古墳	大牟田市萩ノ尾町2丁目	円・18	6/4	2	I a	A2	B1a	b1	4A1	4A1	2・4	1	42・43	21-15	石室・壁面・前門▲	
194	山添古墳	大牟田市大字岬字山添	前円・22	6/3-4?	2	I-	A1	C1b	-	-	-	2	1	44		前室前面破壊	
195	青龍山1号墳	大牟田市大字倉永字福砂	円・18		2												

【文献】

- 1) 速水信也編1992『三沢古墳群Ⅱ』(小郡市教育委員会)
- 2) 中島達也・佐藤雄史1995『刈又地区遺跡群Ⅰ』(小郡市教育委員会)
- 3) 山口淳ほか『遺跡を民衆の手に』第2集(花立山調査実行委員会)
- 4) 片岡宏二編1988『三国の鼻遺跡Ⅲ』(小郡市教育委員会)
- 5) 森田勉編1979『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』XXXI(福岡県教育委員会)
- 6) 島田寅次郎1925「重定楠名古墳」『福岡県史蹟名勝天然記念物調査報告』第1輯(福岡県)
- 7) 森貞次郎1964「重定古墳」『装飾古墳』(平凡社)
- 8) 寺嶋克史1993『朝田古墳群概報』(浮羽町教育委員会)
- 9) 島田寅次郎1925「塚花塚古墳」『福岡県史蹟名勝天然記念物調査報告』第1輯(福岡県)
- 10) 森貞次郎1964「塚花塚古墳」『装飾古墳』(平凡社)
- 11) 児玉真一編1986『西隈上古墳・楠名古墳』(浮羽町教育委員会)
- 12) 石野義助・武藤直治・宮崎勇蔵1939「水繩山麓の装飾古墳」『福岡県史蹟名勝天然記念物調査報告』第13輯(福岡県)
- 13) 渡辺生気1964「古畑古墳と寺徳古墳」『装飾古墳』(平凡社)
- 14) 赤司善彦1995「水繩山麓の装飾古墳」『考古学ジャーナル』395(ニューサイエンス社)
- 15) 栗原和彦編1984『田主丸古墳群』(田主丸町教育委員会)
- 16) 栗原和彦編1985『田主丸古墳群』(田主丸町教育委員会)
- 17) 萩原裕房1987『内畑古墳』(久留米市教育委員会)
- 18) 玉泉大梁1931「草野町宮崎邸内装飾古墳」『福岡県史蹟名勝天然記念物調査報告』第5輯(福岡県)
- 19) 渡辺正気1964「草野町装飾古墳群」『装飾古墳』(平凡社)
- 20) 桜井康治1993『山本町西屋敷古墳群』(久留米市教育委員会)
- 21) 萩原裕房1994「西行古墳群」『久留米市史』第12巻資料編-考古-(久留米市)
- 22) 桜井康治1974『中隈山古墳群』(久留米市教育委員会)
- 23) 桜井康治1994「極楽寺古墳群」『久留米市史』第12巻資料編-考古-(久留米市)
- 24) 西谷正編1972『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』Ⅲ(福岡県教育委員会)
- 25) 川述昭人・伊崎俊秋編1982『大塚1号墳』(広川町教育委員会)

地名表13. 肥前I(佐賀県)

No.	古墳名	所在地	墳形・規模	築造年代	石室構成分類									文献	図版	備考
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨			
1	樋の口古墳	唐津市鏡	円・16	5/4	2	I a	A1	-	a1	1A1	2A-	1	0	1	22-1	石障系
2	淵上古墳	東松浦郡浜玉町字黒田	円・?	6/1-6/2	2	I b	B1	B1a	a1	1A1	1A1	1	0	2	22-2	石障系・石屋形
3	都谷A-ST01	鳥栖市萱方町字都谷	円・12	6/4-7/1	2	I b	B1	C1a	-	2A-	2A-	2	1	3	22-3	
4	都谷B-ST01	鳥栖市萱方町字都谷	円・16	6/4-7/1	2	I b	A2	C1a	b-	2A2	2A2	2	1	3	22-6	
5	都谷B-ST02	鳥栖市萱方町字都谷	円・10	6/4-7/1	2	I c	A3	C1b	a1	2A2		2	1	3	22-7	
6	都谷B-ST03	鳥栖市萱方町字都谷	円・?	6/4	2	I e	C1	C3a	-	2A-	2A-	2	1	3	22-10	
7	都谷B-ST08	鳥栖市萱方町字都谷	円・12	6/3-4	2	I a	A1	B2a	-	2A-	2A-	2	1	3	22-4	
8	都谷B-ST11	鳥栖市萱方町字都谷	円・?	6/3-4	2	I b	A1	C1a	-	2A-	2A-	2	1	3	22-5	
9	都谷B-ST12	鳥栖市萱方町字都谷	円・12	6/4-7/1	2	I b	B3	C1a	b1	2A1	2A1	2	1	3	22-9	
10	都谷B-ST15	鳥栖市萱方町字都谷	円・10	6/4-7/1	2	I b	B1	C1a	-	2A2	2A2	2	1	3	22-8	
11	都谷C-ST01	鳥栖市萱方町字都谷	円・10	6/4-7/1	2	I b	A1	C2b	-	2A2	2A2	2	1	3	22-11	
12	都谷D-ST01	鳥栖市萱方町字都谷	円・11	6/4-7/1	2	I b	B1	C1a	-	2A2	2A2	2	1	3	22-12	
13	宮西-ST02	鳥栖市中原町字宮西	円・13	6/4-7/1	2	I b	B1	C1a	a1	2A1	2A2	2	1	3	22-13	
14	山浦新田-ST01	鳥栖市山浦町字新町	円・?	6/4-7/1	2	I c	-	-	-	2A-		2	1	3		
15	萩野-ST16	鳥栖市袖比町字萩野	円・?	6/4-7/1	2	I -	B1	C1a	-	-	-	2	1	3		
16	東十郎4区2号墳	鳥栖市河内町・神辺町	円・?	?										4		
17	東十郎4区4号墳	鳥栖市河内町・神辺町	円・10	6/4-7/1	2	I c	B3	C1b	-	-	-	-	-	4	22-18	
18	東十郎4区9号墳	鳥栖市河内町・神辺町	円・11	6/4-7/1	2	I c	C3	C1b	-	-	-	-	-	4	22-17	
19	東十郎5区2号墳	鳥栖市河内町・神辺町	円・10	6/4										4		
20	東十郎5区4号墳	鳥栖市河内町・神辺町	円・11	6/4	2	I b	B2	C1a	a1	2A2	2A2			4	22-15	
21	東十郎5区5号墳	鳥栖市河内町・神辺町	円・?											4		
22	東十郎6区1号墳	鳥栖市河内町・神辺町	円・12											4		
23	東十郎6区3号墳	鳥栖市河内町・神辺町	円・6.5	6/4										4		
24	東十郎6区4号墳	鳥栖市河内町・神辺町	円・?	7/2-3										4		
25	東十郎7区1号墳	鳥栖市河内町・神辺町	円・?											4		
26	東十郎7区3号墳	鳥栖市河内町・神辺町	円・?	6/4-7/1	2	I c	B3	C2b	a1	2A2		2	1	4		
27	東十郎特別区イ号墳	鳥栖市河内町・神辺町	円・15	6/4	2	I b	A1	C1a	a4	2A2	2A2	2	1	4	22-14	玄室屍床仕切
28	東十郎特別区ロ号墳	鳥栖市河内町・神辺町	円・7	6/4										4		
29	田代太田古墳	鳥栖市田代本町	円・50	6/3	3	I b	A1	B1b	b1	2A1	2A2	2	1	5・6	23-1	前室屍床・壁画
30	深底1号墳	鳥栖市神辺町	円・8	6/4-7/1	2	I c	A1	C2b	a1	2A2		2	1	7	23-3	
31	深底2号墳	鳥栖市神辺町	円・6	6/3-4	2	I c	B1	C2a	a1	2A2		2	1	7	23-2	
32	深底3号墳	鳥栖市神辺町	円・13	6/4-7/1	2	I c	B1	C2b	a1	2A2		2	1	7	23-4	
33	稲塚古墳	鳥栖市古賀町	?													
34	田代公園ST01	鳥栖市神辺町	円・?	6/4												*
35	田代公園ST03	鳥栖市神辺町	円・?	6/4												*
36	牛原原田ST02	鳥栖市牛原町字原田	円・22	6/4-7/1	2	I b	B1	C1a	-	2A-	2A-	2	1	8		
37	牛原原田ST04	鳥栖市牛原町字原田	円・?	6/4	2	I b	B1	C1a	-	2A-	2A-	2	1	8		
38	牛原原田ST05	鳥栖市牛原町字原田	前円?・53	6/4-7/1	2	I b	B1	C1a	-	2A2	2A2	2	1	8		
39	牛原原田ST06	鳥栖市牛原町字原田	円・44	6/4-7/1	2	I b	A1	C1b	-	2A-	2A-	2	1	8		
40	立石山田ST02	鳥栖市立石町字山田	円・?	6/4-7/1												*
41	立石山田ST03	鳥栖市立石町字山田	円・?	6/4-7/1												*
42	立石山田ST04	鳥栖市立石町字山田	円・?	6/4-7/1												*
43	立石山田ST05	鳥栖市立石町字山田	円・?	6/4-7/1												*
44	立石山田ST07	鳥栖市立石町字山田	円・?	6/4-7/1												*
45	立石山田ST10	鳥栖市立石町字山田	円・?	6/4-7/1												*
46	立石山田ST11	鳥栖市立石町字山田	円・?	6/4-7/1												*
47	立石山田ST13	鳥栖市立石町字山田	円・?	6/4-7/1												*
48	惣座-1号墳	鳥栖市立石町字惣座	円・?	6/4	2	I b	A3	C1a	-	2A1	2A1	2	1	9		
49	立石惣座ST01	鳥栖市立石町字惣座	円・?	6/4	2	I b	A1	-4	-	-	-	2	-	9		
50	梅坂6号墳	鳥栖市袖比町	円・30	6/4	2	I b	A-	C1a	a1	2A2	2A1	2	1	10		
51	百度塚古墳	鳥栖市牛原町	?													
52	黒谷2号墳	三養基郡基山町園部・宮裏	円・?	6/4	2	I b	A1	C1a	a1	2A2	2A2	2	1	11	23-6	
53	黒谷4号墳	三養基郡基山町園部・宮裏	円・13	6/4-7/1	2	I c	A3	C2a	a1	2A2	2A2	2	1	11	23-7	
54	黒谷5号墳	三養基郡基山町園部・宮裏	円・18	6/3-4	2	I b	A1	C1a	a1	2A2	2A2	2	1	11	23-5	
55	黒谷6号墳	三養基郡基山町園部・宮裏	円・?	6/4	2	I b	B2	C1a	-	2A-	2A-	2	1	11		

- 26) 井上裕弘編1981『東山古墳群』(広川町教育委員会)
- 27) 川述昭人1988『植松古墳群』(広川町教育委員会)
- 28) 佐々木隆彦1994『植松古墳群Ⅱ』(広川町教育委員会)
- 29) 川述昭人・池部元明1983『山王山古墳』(広川町教育委員会)
- 30) 川述昭人編1986『鬼塚古墳群』(広川町教育委員会)
- 31) 川述昭人編1986『瀬高地区遺跡—上長延1～3号墳』(福岡県教育委員会)
- 32) 川述昭人編1985『上長延古墳群』(広川町教育委員会)
- 33) 赤崎敏男編1988『童男山古墳』(八女市教育委員会)
- 34) 赤崎敏男編1987『童男山11・12号墳』(八女市教育委員会)
- 35) 小田富士雄編1972『立山山竈跡群』(八女古竈跡群調査団)
- 36) 小田富士雄編1971『菅の谷竈跡群』(八女市教育委員会)
- 37) 赤崎敏男編1987『岩戸山古墳群』(八女市教育委員会)
- 38) 川述昭人編1984『大塚古墳』(立花町教育委員会)
- 39) 山田元樹編1990『岬ヶ原古墳群』(大牟田市教育委員会)
- 40) 萩原裕房編1979『釈迦堂古墳群』(大牟田市教育委員会)
- 41) 馬田弘稔編1973『望谷古墳』(大牟田市教育委員会)
- 42) 渡辺正気1964『萩ノ尾古墳』『装飾古墳』(平凡社)
- 43) 三島格・渡辺正気1965『原始古代』『大牟田市史』上巻(大牟田市)
- 44) 柴尾俊介編1977『山添古墳』(大牟田市教育委員会)

福岡県立歴史民俗資料館
 福岡県立歴史民俗資料館
 福岡県立歴史民俗資料館

地名表14. 肥前II(佐賀県)

No.	古墳名	所在地	墳形・規模	築造年代	石室構成分類									文献	図版	備考	
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨				
56	黒谷7号墳	三養基郡基山町園部・宮裏	円・11	6/4	2	I	b	A1	C1a	a1	2A2	2A2	2	1	11		
57	水呑4号墳	三養基郡基山町園部	方?・10	6/4	2	I	b	A1	C1a	b-	2A2	2A2	2	1	11	23-9	
58	水呑5号墳	三養基郡基山町園部	円・14	6/4-7/1	2	I	b	A1	C1b	b1	2A2	2A2	2	1	11	23-10	
59	鎌浦1号墳	三養基郡基山町大字園部	円・?	6/4	2	I	b	A1	C1a	a1	2A2	2A2	2	1	12	23-12	
60	鎌浦2号墳	三養基郡基山町大字園部	円・10	6/4	2	I	b	B1	C1a	a1	2A2	2A2	2	1	12	23-13	
61	鷹取山1号墳	三養基郡中原町大字原古賀	円・13	6/4-7/1	2	I	c	A1	B1a	-	2A2		2	1	13	24-2	
62	高柳大塚古墳	三養基郡中原町大字原古賀	前円・30	6/4-7/1	2	I	c	B1	A1a	a1	2A1	2A1	2	1	14	23-8	
63	運田山1号墳	神埼郡東背振村	円・10	6/4-7/1													
64	運田山2号墳	神埼郡東背振村	円・7	6/4-7/1													
65	裏田ST01	神埼郡東背振村三津	円・15	6/3													
66	戦場ST49	神埼郡東背振村三津	円・?	6/3													
67	上三津栗原-ST01	神埼郡東背振村大字三津字栗原	円・?	6/4	2	I	c	A1	C1a	-	2A2	2B2	2	1	15	23-11	
68	石動裏田ST03	神埼郡東背振村大字石動	円・8	6/4-7/1		I	a	B6	C1a	-	2A1	2A2			16		
69	石動裏田ST04	神埼郡東背振村大字石動	円・12	6/4-7/1											17		
70	石動裏田ST05	神埼郡東背振村大字石動	円・8.5	6/3											17		
71	石動二本松-ST02	神埼郡東背振村大字石動	円・17	6/3	2	I	a	B6	C1a	-	2A2	2B2	2	1	18	24-4	
72	東山古墳	神埼郡東背振村大字石動	?														
73	西一本杉-ST12	神埼郡東背振村大字石動	円・13	6/4-7/1	2	I	b	C1	B1a	a1	2A1	2A2	2	1	15	24-1	
74	朝日-ST01	神埼郡神埼町大字城原	円・	6/4-7/1	2	I	b	B1	B1a	a-	2A2	2A2	2	1	19	24-3	
75	久保泉地区6号墳	佐賀市久保泉町川久保上	円・13.6												20		
76	久保泉地区8号墳	佐賀市久保泉町川久保上	円・9.4		2	-	-	-	a1	A2	A2	2	1	20		疑似石棚	
77	久保泉地区16号墳	佐賀市久保泉町川久保上	円・12	6/3-4	2	-	B-	-	b1	A1	A2	2	1	20			
78	久保泉地区18号墳	佐賀市久保泉町西原姥所	円・16	6/4-7/1	2	-	-	-	a1	A1	A2	2	1	20			
79	久保泉地区19号墳	佐賀市久保泉町西原姥所	円・12	6/4-7/1	2	I	b	B1	C1a	-	2A-	2A-	-	-	20		
80	西原-ST04	佐賀市久保泉町川久保上	円・15	6/4-7/1	2	I	c	B2	C1a	-	-		2	1	15		
81	西原鬼塚古墳	佐賀市久保泉町	円・?												21		
82	金立地区3号墳	佐賀市金立町黒土原	円・12												20		
83	金立地区181号墳	佐賀市金立町大門乱斗山	円・22	6/4?	2	I	c	A1	B1a	-	2A-		-	-	20	24-7	
84	金立地区180号墳	佐賀市金立町大門乱斗山	円・12.4	6/4?	2	I	a	C1	C1a	-	2A-	2A-	-	-	20		
85	金立地区180号墳	佐賀市金立町大門乱斗山	円・13	7/1	2	I	-	B1	B1a	-	2A-	2A-	-	-	20	24-11	
86	金立地区194号墳	佐賀市金立町大門乱斗山	円・16	7/1?	2	I	b	B	C1	-	2A-	2A-	-	-	20	24-10	
87	金立地区200号墳	佐賀市金立町黒土原	円・17												20		
88	金立地区22号墳	佐賀市金立町黒土原	円・8.4	7/1?	2	I	b	C1	B1a	-	2A-	2A-	-	-	20	24-9	
89	金立地区23号墳	佐賀市金立町黒土原	円・8.6												20		
90	金立地区25号墳	佐賀市金立町黒土原	円・6.4												20		
91	金立地区27号墳	佐賀市金立町黒土原	円・8												20		
92	金立開拓-ST06	佐賀市金立町大金立	円・10	7/2-3	2	I	c	C1	C1a	-	2A2		2	1	22	24-5	
93	金立開拓-ST07	佐賀市金立町大金立	円・8	7/1?	2	I	b	C-	C2a	-	2A-	2A-	2	1	22		
94	金立開拓-ST09	佐賀市金立町大金立	円・14.5	7/1	2	I	c	C1	C1a	-	-		2	1	22	24-6	
95	金立開拓-ST11	佐賀市金立町大金立	円・11.5	7/1	2	I	-	C-	C1a	-	-		2	1	22		
96	金立開拓-ST13	佐賀市金立町大金立	円・13.5	6/4	2	I	c	C1	B-a	-	-		2	1	22		
97	金立開拓-ST16	佐賀市金立町大金立	円・?	7/1	2	I	b	B1	C1b	-	-		2	1	22		
98	金立開拓-ST20	佐賀市金立町大金立	円・?	6/4	2	I	b	-	C1a	-	-		2	-	22		
99	男女神社東方14号墳	佐賀郡大和町久留間	?												21		
100	男女神社東方16号墳	佐賀郡大和町久留間	?												21		
101	男女神社東方22号墳	佐賀郡大和町久留間	?												21		
102	男女神社東方28号墳	佐賀郡大和町久留間	?												21		
103	男女神社東方33号墳	佐賀郡大和町久留間	?												21		
104	男女神社東方36号墳	佐賀郡大和町久留間	?												21		
105	男女神社東方46号墳	佐賀郡大和町久留間	?												21		
106	男女神社東方52号墳	佐賀郡大和町久留間	?												21		
107	寺浦古墳	小城郡小城町畑田	前円・35	6/3-4?	2	I	-	C-	C--	-	-		-	-	23		石材抜取り
108	小城炭坑跡古墳	多久市東多久字別府	円・13	6/4-7/1	2	I	c	C1	C1b	-	2A-		2	1	24	24-12	
109	竜王崎6号墳	杵島郡有明町大字深浦	円・?	6/4?	2	I	a	A1	C2b	-	2A1	2A-	2	1	25	24-14	線刻
110	竜王崎4号墳	杵島郡有明町大字深浦	?	6/4-7/1	2	I	-	A1	A1a	-	2A-	2A-	2	1	26		

地名表15. 肥前川(佐賀県)

No.	古墳名	所在地	墳形・規模	築造年代	石室構成分類									文献	図版	備考	
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨				
111	東明寺古墳	杵島郡有明町大字辺田	円・?														
112	永池古墳	杵島郡北方町大字大渡	円・?	6/4?	2	I a	A1	C2b	-	2A2	2A2	2	1	27	24-15		
113	勇猛山4号墳	杵島郡北方町大字大渡	円・14	6/3-4	2	I b	A2	C1a	b1	A1	A1	2	1	28	24-13		
114	田古里古墳	藤津郡太良町大字大浦	?											29			

【文献】

- 1) 高倉洋彰1982「樋の口古墳」『末廬国』(六興出版)
- 2) 西谷正1982「淵上古墳」『末廬国』(六興出版)
- 3) 小松讓編1991『都谷遺跡』(佐賀県教育委員会)
- 4) 木下之治1966『東十郎古墳群』(佐賀県教育委員会)
- 5) 森貞次郎1964「田代大田古墳」『装飾古墳』(平凡社)
- 6) 保存科学研究会編1976『田代太田古墳調査および保存工事報告書』(鳥栖市教育委員会)
- 7) 藤瀬禎博編1984『新農業改善事業関係埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』(鳥栖市教育委員会)
- 8) 久山高史編1994『牛原原田遺跡』(鳥栖市教育委員会)
- 9) 石橋新次編1995『惣楽遺跡』(鳥栖市教育委員会)
- 10) 藤瀬禎博編1986『梅坂古墳群』(鳥栖市教育委員会)
- 11) 久山高史編1993『黒谷・水呑古墳群』(佐賀県教育委員会)
- 12) 山田正編1988『鎌浦古墳群』(基山町教育委員会)
- 13) 田平徳栄編1978『鷹取山山麓遺跡』(中原町教育委員会)
- 14) 小松讓「佐賀県下の横穴式石室」『朝日北遺跡』(佐賀県教育委員会)
- 15) 東中川忠美編1983『西原遺跡』(佐賀県教育委員会)
- 16) 久保伸洋編1988『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書』6(佐賀県教育委員会)
- 17) 久保伸洋編1989『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書』7(佐賀県教育委員会)
- 18) 小松讓編1990『西石動遺跡』(佐賀県教育委員会)
- 19) 田平徳栄編1992『朝日北遺跡』(佐賀県教育委員会)
- 20) 木下之治編1969『佐賀市金立地区久保泉地区古墳群』(佐賀市教育委員会)
- 21) 松尾禎作1957『佐賀考古大観』
- 22) 蒲原宏行編1984『金立開拓遺跡』(佐賀県教育委員会)
- 23) 高瀬哲郎編1989『老松山遺跡』(佐賀県教育委員会)
- 24) 西村隆司編1984『東多久バイパス関係埋蔵文化財調査報告書』(佐賀県教育委員会)
- 25) 木下之治編1968『竜王崎古墳群』(佐賀県教育委員会)
- 26) 小松讓編1994『龍王崎古墳群』(有明町教育委員会)
- 27) 小松讓1994「杵島山麓に築造される二つの石室」『佐賀考古』1(佐賀考古談話会)
- 28) 木下之治編1967『勇猛山古墳群』(佐賀県教育委員会)
- 29) 中村勳1994「田古里古墳」『太良町誌』上巻Ⅱ歴史編(太良町)

地名表16. 肥前・杵岐(長崎県)

No.	古墳名	所在地	墳形・規模	築造年代	石室構成分類									文献	図版	備考
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨			
1	矢櫃(鬼の岩屋)古墳	杵岐郡芦辺町国分本村触	円・45	6/4-7/1	3	I a	B1	A1a	a1	2A1	2A1	2	1	1・2	25-4	線刻
2	釜蓋6号墳	杵岐郡芦辺町国分本村触字兵	円・?		2	I b	A1	A1a	a1	2A1	2A1	2	1	4		
3	妙泉寺3号墳	杵岐郡芦辺町国分中野郷東触	円・?													
4	岩名ノ辻古墳	杵岐郡芦辺町国分当田触	円・?		2	I b	B1	B1b	-	2A-	2A-	2	1	4		
5	兵瀬古墳	杵岐郡芦辺町国分本村字兵瀬	円・?	6/4	3	I a	B1	A1a	a1	2A1	2A1	2	1	4		
6	一銭替古墳	杵岐郡芦辺町国分当田触	円・?		2	I b	B1	A1a	a1	2A1	2A1	2	1	4		
7	百田頭6号墳	杵岐郡芦辺町国分本村触字坂	円・?		2	I b	A1	A1a	a3	2A1	2A1	2	1	4		
8	百田頭5号墳	杵岐郡芦辺町国分本村触字坂	円・?		2	I b	A1	A1a	a3	2A1	2A1	2	1	4		
9	双六古墳	杵岐郡勝本町立石東触字双六	前円・90	6/3	2	I a	A1	A1a	a1	2A1	2A1	2	1	3	25-2	
10	人羅古墳	杵岐郡勝本町立石東触字二塚	円・?		2									4		
11	布代1号墳	杵岐郡勝本町立石東触字布代	円・?		3	I b	A1	A1a	a1	2A1	2A1	2	1	4		25-1 25-5
12	対馬塚古墳	杵岐郡勝本町立石東触字稗坂	前円・65	6/2-3	2	I a	A1	A1a	a1	2A1	2A1	2	1	3		
13	掛木古墳	杵岐郡勝本町布気触字掛木	円・約30	7/1	3	I b	A1	A1a	a1	2A1	2A1	2	1	3		
14	道元古墳	杵岐郡勝本町布気触字中尾	円・?		2	I b	A1	A2a	a1	2A1	2A1	2	1	4		
15	一本松古墳	杵岐郡勝本町立石仲触字立石	円・?		2	I b	B2	A1a	a1	2A1	2A1	2	1	4		
16	布気2号墳	杵岐郡勝本町布気触字七田	円・?													
17	双塚2号墳	杵岐郡勝本町立石東触字二塚	円・?											5		
18	亀石9号墳	杵岐郡勝本町立石東触字二塚	円・?		2	I b	A1	A1a	a1	2A1	2A1	2	1	4		
19	百合畑23号墳	杵岐郡勝本百合畑触字生池	円・?											4		
20	双塚1号墳	杵岐郡勝本町立石東触字双塚	円・?		2	I a	A1	A1a	a3	2A1	2A1	2	1	4		
21	古大屋古墳	杵岐郡勝本町新城北触字大屋	円・?		2	I -	B1	A1a	-	2A1	2A1	2	1	4		25-3
22	ゼンガメ古墳	杵岐郡勝本町新城西触字野中	円・?		2	I b	B1	A1a	-	2A1	2A1	2	1	4		
23	笹塚古墳	杵岐郡勝本町百合畑触字笹塚	円・66	6/4	3	I a	A1	A1a	a1	2A1	2A1	2	1	3		
24	平原1号墳	杵岐郡勝本町仲触字平原	円・?		2	I a	A1	A1a	a1	2A1	2A1	2	1	4		
25	百合畑23号墳	杵岐郡勝本町百合畑触字生池	円・?		2	I b	A1	A1a	a1	2A1	2A1	2	1	4		
26	響振古墳	杵岐郡勝本町北振触字雨堤	円・?		2	I b	A2	A1a	a1	2A1	2A1	2	1	4		
27	百合畑13号墳	杵岐郡勝本町百合畑触字生池	円・?		2	I a	B1	A1a	a3	2A1	2A1	2	1	4		
28	平尾古墳	杵岐郡郷ノ浦町初山東触字平尾	円・?													
29	鬼屋窪古墳	杵岐郡郷ノ浦町有安触字鬼屋窪	円・?											5・6	旧「浦安」・線刻	
30	永田7号墳	杵岐郡郷ノ浦町永田触字江見山	円・?													
31	大米古墳	杵岐郡郷ノ浦町初山東触字大米	円・?													
32	真布路1号墳	杵岐郡郷ノ浦町長峰東触	円・?													
33	平床古墳	杵岐郡郷ノ浦町初山東触字平床	円・?													
34	松尾古墳	杵岐郡郷ノ浦永田触字松尾	円・10													
35	平山古墳	杵岐郡石田町石田東触字平山	円・?													
36	後北古墳	杵岐郡石田町筒城東触字後北	円・?													
37	長戸鬼塚古墳	北高来郡小長井町長戸	円・?											6	線刻	
38	善部古墳	北高来郡高来町大字湯江	円・?											6	線刻	

【文献】

- 1) 小田富士雄1979「対馬・杵岐の古墳文化」『九州考古学研究—古墳時代編』(学生社)
- 2) 芦辺町教育委員会1990『鬼の窟古墳調査報告』(芦辺町勝本町教育委員会)
- 3) 藤田和裕編1992『県内古墳詳細分布調査報告書』(長崎県教育委員会)
- 4) 松永泰彦1981『杵岐島北部における古墳の現状』『杵岐』15号(杵岐史跡顕彰会)
- 5) 小田富士雄1970『「魏誌」倭人伝の世界』『古代の日本』3九州(吉川弘文館)
- 6) 日下八光監修1973『装飾古墳の壁画』(佐賀県立博物館)

地名表17. 肥後(熊本県)

No.	古墳名	所在地	墳形・規模	築造年代	石室構成分類									文献	図版	備考	
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨				
1	四ツ山古墳	荒尾市大島区笹原四ツ山神社	円・10	6/4-7/1	2	I	b	B1	C1a	-	2A-	2A-	2	1	1	26-9	
2	八角目1号墳	玉名市南関町久重字八角目	円・?	6/4-7/1	2	I	b	A1	C1b	a1	2A1	2A1	2	1	2	26-8	石棚
3	八角目2号墳	玉名市南関町久重字八角目	円・?												2		石屋形
4	八角目3号墳	玉名市南関町久重字八角目	円・?												2		石屋形・剝抜玄門
5	塚坊主古墳	玉名郡菊水町瀬川字清水原	前円・43.4	5/4-6/1	2	I	a	A1	A1a	b1	4A-	4A-	1	0	3	図1-2	石屋形・壁面
6	江田穴観音古墳	玉名郡菊水町江田	円・17	7/1-2?	2	I	a	A2	C2a	a3	4A1	4A1	4	0	4・5	26-6	石屋形・剝抜玄門
7	伝左山古墳	玉名市繁根木	円?・30	5/4	2	I	a	A1	A1a	a-	2A1	2A1	1	0	6・7	図1-2	石障系石室
8	大坊古墳	玉名市玉名	前円・54	6/2	2	I	b	A1	C3a	b-	1A1	1A1	1	0	8・9	26-1	石屋形・壁面
9	弁慶ヶ穴古墳	山鹿市熊入	円・15	6/4	2	I	a	A1	C1b	b4	2A1	2A1	2	1	10・11	26-4	石屋形・壁面
10	チブサン古墳	山鹿市城西福寺	前円・44	6/2-3	2	I	-	A1	C1a	b-	1A1	-	1	1	12・13	26-2	石屋形・壁面
11	オブサン古墳	山鹿市城西福寺	円・22	7/1	2	I	b	A1	C1a	a1	4A1	4A1	2	1	14・15	26-5	石屋形・壁面
12	馬塚古墳	山鹿市城鬼天神	円・22-25	6/2-3	2	I	b	A1	A1a	-	1A2	1A2	2	1	16	26-3	石屋形・壁面
13	袈裟尾高塚古墳	菊池市袈裟尾高塚	円・18	6/2-3	2	I	a	A1	A1a	-	1A2	1B2	2	1	17・18	26-7	石屋形・壁面
14	石川山3号墳	鹿本郡植木町石川塚前	円・28	6/3	2	I	b	A1	C1a	b-	2A2	2A2	2	1	19	27-2	石棚
15	石川山4号墳	鹿本郡植木町石川塚前	円・22-25	6/4	2	I	a	A1	C3a	a1	4A1	4A1	2・4	1	19	27-3	石屋形
16	石川山5号墳	鹿本郡植木町石川塚前	円・?	6/3	2	I	d	A1	A1a	a3	-	2A1	2	1	19	27-1	玄室屍床・玄門▲.
17	鬼の窟古墳	鹿本郡植木町小野	円・20	6/4	2	I	a	A1	B1a	a1	4A1	4A1	2・4	1	20	27-4	石屋形
18	釜尾古墳	熊本市釜尾同免	円・13	6/2-3	2	I	d	B1	A1a	b4	2A1	2A1	1	0	21・22	27-5	石屋形・壁面
19	上御倉古墳	阿蘇郡一の宮町手野	円・33	6/3-4	2	I	a	A1	C1a	b1	4A1	4A1	2・4	1	23	27-7	石屋形
20	下御倉古墳	阿蘇郡一の宮町手野	円・30	6/4-7/1	2	I	b	A1	C1a	b1	4A1	4A1	2・4	1	23	27-6	石屋形・前門▲a
21	大野窟古墳	八代郡奄北町大野芝原	前円・約100	6/3	2	I	a	A1	B1a	a3	4A1	4A1	2・4	1	24	27-8	石棚・剝抜玄門
22	如見2号墳	八代市岡町如見	円・?														
23	行西4号墳	八代市岡町行西	円・?														

【文献】

- 1) 坂本経亮1979『四ツ山古墳』(四ツ山古墳調査委員会)
- 2) 坂本真鈴1923「肥後国西北部の古墳」『考古学雑誌』13-8(日本考古学会)
- 3) 熊本県教育委員会1994『国指定史跡塚坊主古墳』(熊本県教育委員会)
- 4) 梅原末治1922「玉名郡江田村中小路穴観音古墳」『熊本県史蹟名勝天然記念物調査報告』1(熊本県)
- 5) 高木正文1984「江田穴観音古墳」『熊本県装飾古墳総合調査報告書』(熊本県教育委員会)
- 6) 梅原末治1922「玉名郡繁根木古墳」『熊本県史蹟名勝天然記念物調査報告』2(熊本県)
- 7) 河野京子1982「石障系古墳の一考察」『肥後考古』第2号(肥後考古学会)
- 8) 田辺哲夫1965「熊本県玉名市大坊古墳」『玉名高校考古学報告』第11号(熊本県立玉名高等学校)
- 9) 原口長之1984「大坊古墳」『熊本県装飾古墳総合調査報告書』(熊本県教育委員会)
- 10) 原口長之1956『弁慶ヶ穴古墳調査報告』(山鹿高校考古学部)
- 11) 原口長之1984「弁慶ヶ穴古墳」『熊本県装飾古墳総合調査報告書』(熊本県教育委員会)
- 12) 乙益重隆1964「チブサン古墳」『装飾古墳』(平凡社)
- 13) 原口長之1984「チブサン古墳」『熊本県装飾古墳総合調査報告書』(熊本県教育委員会)
- 14) 原口長之1984「オブサン古墳」『熊本県装飾古墳総合調査報告書』(熊本県教育委員会)
- 15) 桑原憲彰・勝又俊一編1987『オブサン古墳』(熊本県教育委員会)
- 16) 原口長之1984「馬塚古墳」『熊本県装飾古墳総合調査報告書』(熊本県教育委員会)
- 17) 田辺哲夫・原口長之1963『石川山古墳群発掘調査報告書』(熊本県教育委員会)
- 18) 隈昭志1981「原始・古代」『植木町史』(植木町)
- 19) 文化財保存計画教会編1981『県史跡袈裟尾高塚古墳保存修理工事報告書』(菊池市教育委員会)
- 20) 隈昭志1984「袈裟尾高塚古墳」『熊本県装飾古墳総合調査報告書』(熊本県教育委員会)
- 21) 浜田耕作1919「肥後国飽託郡西里村釜尾の古墳」『京都帝国大学考古学研究報告』第3冊(京都大学)
- 22) 乙益重隆1984「釜尾古墳」『熊本県装飾古墳総合調査報告書』(熊本県教育委員会)
- 23) 乙益重隆1961『阿蘇谷の古墳』(熊本県教育委員会)
- 24) 三島格1963「大野窟古墳」『九州考古学』19号(九州考古学会)

地名表18. 南豊前・豊後(大分県)

No.	古墳名	所在地	墳形・規模	築造年代	石室構成分類									文献	図版	備考	
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨				
1	法恩寺3号墳	日田市大字日高	円・20	6/4-7/1	2	I	b	A6	C1c	b1	2B1	2A1	1	1	1・2	28-1	前室屍床・壁画
2	ガランドヤ2号墳	日田市大字石井字西ノ園	円・?	6/4	2	I	b	A1	B1a	b1	2A1	2A1	2	1	3・4	28-2	壁画
3	日田穴観音古墳	日田市大字内河内	円・約12	7/1	2	I	a	B1	C1b	b1	2A1	2A1	2	1	5・6	28-3	壁画
4	惣田塚古墳	日田市大字高瀬	円・?														
5	三郎丸古墳	日田市大字友田	円・?														
6	有田塚が原1号墳	日田市大字有田	円・10														
7	鬼塚古墳	玖珠郡玖珠町大字小田字中通	円・?	6/4	2	I	b	A1	B1b	b1	2B1	2B1	2	1	7・8	28-4	壁画
8	鬼が城古墳	玖珠郡玖珠町大字帆足	円・約14	7/1	2	I	-	B1	B2a	b1	2A1	2A1	2	1	9	28-5	石棚・線刻
9	久々姥1号墳	宇佐市大字山下	円・24		2	I	-								10		
10	別府古墳	宇佐市大字別府	円・														
11	御橋古墳	宇佐市大字北別府	円・														
12	六十塚古墳	宇佐市大字富山字六十塚	円・18	6/4-7/1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11		石材抜取り
13	雷鬼岩屋古墳	豊後高田市大字雷	円・	7/1	2	I	a	A1	B1b	c4	2A1	2A1	2	1	12	28-6	
14	鬼の岩屋1号墳	別府市大字石垣字塚原	円・24	6/4-7/1	2	I	b	B1	B2b	b1	2A1	2A1	2	1	13・14	28-7	石屋形・壁画

【文献】

- 1) 賀川光夫・小田富士雄1959『法恩寺古墳群』(日田市教育委員会)
- 2) 小柳和宏1995「法恩寺山3号墳」『大分県の装飾古墳』(大分県教育委員会)
- 3) 小柳和宏編1986『ガランドヤ古墳群』(日田市教育委員会)
- 4) 小柳和宏1995「ガランドヤ2号墳」『大分県の装飾古墳』(大分県教育委員会)
- 5) 賀川光夫1961「穴観音古墳」『大分県史料』(20)第6部考古資料(大分県)
- 6) 村上和久1995「穴観音古墳」『大分県の装飾古墳』(大分県教育委員会)
- 7) 賀川光夫1971『大分県の考古学』(吉川弘文館)
- 8) 小柳和宏1995「鬼塚古墳」『大分県の装飾古墳』(大分県教育委員会)
- 9) 小柳和宏1995「鬼ヶ城古墳」『大分県の装飾古墳』(大分県教育委員会)
- 10) 小倉正吾1975「宇佐の古代文化③」『宇佐の文化』第6号
- 11) 林一也1986「六十塚古墳の調査」『駅館川流域遺跡群発掘調査報告』I(宇佐市教育委員会)
- 12) 渋谷忠章1989「横穴式石室の構造と展開」『大分県史』先史編II(大分県)
- 13) 坂田邦洋・宇都宮英治・遠藤和幸1986「鬼の岩屋1号墳の壁画について」『別府大学紀要』第27号(別府大学)
- 14) 村上和久1995「鬼の岩屋1号墳」『大分県の装飾古墳』(大分県教育委員会)